

令和6年度(2024年度)

国際教育

地球市民を地域とともに育てよう Part 23

報告書



公益財団法人滋賀県国際協会

目 次

◇ 目 次 1

実績報告

◇ 国際教育ワークショップ 2

地球市民を地域とともに育てよう Part 23

日常に埋め込まれた差別に気づく

～マイクロアグレッションについて～

講 師 きたがわ 北川 ともこ 知子 さん

特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会理事長

開催日 2025年1月11日（土）

会 場 ピアザ淡海

主 催 公益財団法人滋賀県国際協会

共 催 JICA関西 国際教育研究会 Glocal net Shiga

◇ 国際教育教材体験フェア in 滋賀 2024

開催日 2024年8月2日（金）18

会 場 ピアザ淡海

主 催 公益財団法人滋賀県国際協会

共 催 独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA関西）

協 力 国際教育研究会 Glocal net Shiga

資料集

◇ 滋賀県における国籍別外国人人口28

◇ 国際教育研究会 Glocal net Shiga 活動報告29

◇ 国際教育・開発教育貸出教材の紹介31

実践報告

国際教育ワークショップ 報告

地球市民を地域とともに育てよう Part 23

「日常に埋め込まれた差別に気づく

～マイクロアグレッションについて～」

国際教育教材体験フェアin 滋賀 2024報告

2024年度 国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part 23

日常に埋め込まれた差別に気づく ～マイクロアグレッションについて～

開催日：2025年1月11日（土） 10：00～16：45

会場：ピアザ淡海 204会議室（大津市） 参加者：27人

主催：公益財団法人滋賀県国際協会 共催：JICA関西 Glocal net Shiga

講師紹介

特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会理事長

学生時代に在日コリアン子ども会（現：NPO法人トッカピ）にかかわる。私立高校教諭（国語科・演劇部顧問）を経て、現在は主に教員養成・学校教職員研修を請け負うフリーランス講師（テーマは「人権」「多文化共生」「異文化コミュニケーション」「在日コリアン史（移民と植民地）」など）、および大阪教育大学非常勤講師。2016年から特定非営利活動法人とんだばやし国際交流協会理事長。富田林市外国につながる子ども・保護者を支えるネットワーク（富田林市多文化共生ネット）顧問。

著書など：

『人権教育への招待』神村早織・森実編（解放出版社）第2章3項「在日外国人と多文化共生」執筆

『日本統治時代・朝鮮の「国語」教科書が教えてくれること』（風響社・植民地教育史ブックレット）単著

きたがわ ともこ
北川 知子さん



午前の部

滋賀県の在留外国人数は、長らくブラジルが1位だったが、いまはベトナムが1位。富田林市も、中国が長い間1位だったが、数年前に滋賀県同様、ベトナムが1位になった。富田林の場合、エンジニアや通訳などの業務に就く人が家族を帯同するケースが増えていて、就学前から低学年ぐらいの年齢の子どもも増えており、学校での取り組みや子育て支援などが益々重要になりそうだ。

「ちがいでキドキ多文化共生ナビ」という大阪府在日外国人教育研究協議会が2017年に発行した教材の中で滋賀県国際協会発行の教材「言葉がわからない体験ゲーム」が紹介されており、とんだばやし国際交流協会でも、1セット持って活用している。また富田林市多文化共生指針策定委員を務めていた際に、近江八幡市の取り組みを視察したこともあり、滋賀県とはご縁があるなと思っている。

私は国際交流協会の理事長を務めているが、英語はほとんどできない。BTSのファンになってから韓国語の勉強を再開して、そちらに熱中しているせいで、ますます英語より韓国語の方が得意になっている。（以上自己紹介）

まず、「ワークショップ形式」とは何か？ もともとは「作業場」という意味。参加者同士が共同作業をする、つまり活動を共にし、意見交換しながら学び合う場という意味で、人権学習にも30年ほど前からよく取り入れられるようになった。参加型学習、主体的学びということで、「アクティブラーニング」が一時期盛んに言われ、大学でも主体的・体験的な学びの工夫をどのように取り入れるかをシラバスに書くことを求められている。ワークショップ型の学びが良いものになるためには、みなさんがすでに持っておられるものと、この場で新たにインプットした情報をふまえて考え、それをアウト

プットしていく、お互いがフィードバックし合う作業が大事。知識がないところで、ただ主体的にアクティブにアウトプットしろと言うだけでは、成立しない。表面的に動き回ってれば「アクティブラーニング」だという誤解も解いていきたいと思っている。

金子匡良さん（法政大学教授・法学者）が「基本的人権の本質を一言で表すなら？」という質問に対して、「嫌だ（NO）と言えること」とおっしゃったのが腑に落ちたので、私もこの説明をよく使う。人権とは、もともと権力の支配に対して“NO”を宣言するところが出発だった。権力者や多数派の都合に合わせることを強いられる、自分の大事なもの・尊厳を侵害されることに対して“NO”が言えるというのが基本的人権。そこで大切なのは本人が“NO”と言える力をもつ、強くなれということではなく、“NO”を尊重する、受け止める人がいる、受け止める環境があることだ。“NO”と言っても聞いてもらえない、無視される環境では、いくら叫んでも、その声には力がないということになってしまう。だから、“NO”と言える空間・環境を作ることが基本的人権を保障するために大事。環境を作るために一人ひとりが嫌だと言っていく個人の努力と、嫌だという声を受け止める環境の相互作用で、人権が保障される社会を作っていかなければならない。

法務省人権擁護局のLINEアカウントをフォローしているが、定期的に届くメッセージやお知らせには「やさしさ・思いやり」路線が多い。「みんなのやさしさで人権にあふれた社会を」といった標語が典型だが、日本語の「おもいやり」は「やるもの（与えるもの）」という意味合いがあることに注意すべきだ。本来人権は誰かからもらうものではなく、すべての人に「あるもの」。人に余裕があるときは思い「やれる」、余裕がないときには思い「やれない」では困る。「思いやり」に依存しすぎると人権は守れないということも押さえておく必要がある。「すべての人にあるのが人権」ということを言い換えると、「私もあなたたちと同じ人間だ」とわざわざ言わなくてはならない状況は、

人権侵害が起きている状況だということになる。

1. アイスブレイク

イスのみの円座の状態からスタート

Welcome アクティビティ

「よろしく」「ようこそ」の気持ちを楽しむアクティビティから。

- ① 空席の両隣りの人が手をつなぎ、席を立って、空席に招く人を誘いに行く。
- ② 座っている人の中から一人を誘って、空席まで案内して座ってもらう。2人は元の椅子に座る。
- ③ 新たな空席が生まれているので、その空席に誰かを招き入れる（①から繰り返し）

以上の動きを、音楽に合わせて軽やかに行う。練習も兼ねた1曲目から、「自分の隣にできた空席・空白に敏感に」「全員が最低1回は招待される側になるように」意識して2曲目へ。

「招く／招かれる」温かい気持ちを味わったところで、さらにウォーミングアップ！

きく（聞く、聴く、訊く）

「きくこと」をしっかり意識し、対話するアクティビティ。二重の円をつくり、内側の人と外側の人が向かい合ってペアをつくる。

《二人一組での活動》

- はじめましてのペアは、自己紹介を行う。
 - 知り合いのペアは、なぜここに来たのか、今の期待感などについて話す。
- ① ふたりで2分間話す。（ベルが鳴る）
 - ② 外側の円の方が左にひとつイスをずれる。（2分話す）
 - ③ 外側の円の方が左にもう一度ずれて、2分話す。
 - ④ 外側の円の方が一つ横の席にずれる。
 - ⑤ 話した方にありがとうと手を振る。まだ話していない人にも「これから話そうね」の気持ちで手を振る。



《3～4人の活動》

3～4人のグループになり、メンバーに1～4番まで番号を振る（3人グループは3番まで）

- ① 1番の人が「私の“好き”について」1分話す。
- ② 2番の人は、聞いた話を20秒で要約して話す。3番・4番はそれをきく。
- ③ 1番の人は、2番の人の要約を聞いた感想を伝える。
- ④ 次は2番の人が好きなことについて1分話す。以下、①～③を順に回していき、全員が「話す人」役を終えるまで繰り返す。
- ⑤ 最後にグループで感想交流（2分）を行う。



グラドルールの確認

今日のワークショップでのルールを考える。

- 積極的に主体的に！
- ここでの話はここだけの話（守秘）
- 何を話すか話さないかはその人が決めること（パスあり）

付け足したいルールのアイデアを出そう！

参加者から提案の出した追加ルール：

- 名札があるので、積極的に名前を呼びあう
 - 聴く姿勢（アクティブにきく）
- ⇒「傾聴」は元々カウンセリングの用語で、一方的にきくというニュアンスが

ある。ここでは、相手に関心に向けて「アクティブに」きく、互いに聴きあうという意味でとらえよう。

- 「わたしは」で話す
⇒主語を私にする（^{アイ}メッセージ）
- 沈黙を楽しむ
⇒静かな子が積極的でないわけではない
- 休憩はご随意に（自分のペースで）

2. わたしたちの「宇宙」について

マイクロアグレッションは、人と人とのコミュニケーションの中で起こる。これから「人が3人集まると社会ができる」とはどういうことか？を体験してみたい。

※このアクティビティは韓国の平和教育団体「PEACEMOMO」のもの

参考Web <https://peacemomo.org/>

《一つ目の宇宙：マリオネット》

操る人と操られる人、操られつつ操る人…の役割分担をして、みんなでダイナミックに動くアクティビティ。

- ① 操るだけの1人が、部屋の中央に立ち、2人のマリオネット（操られる人）の額に手のひらをかざして、見えない操り棒でつなぐ。



- ② 2人のマリオネットも操り手になり、次のマリオネットの額に操り棒をつなぐ。そのマリオネットも操り手になり…という具合に、3層の「操り／操られ」の層をつくる。



- ③ 中央の1人が動き始める。マリオネットたちは、それぞれ額に繋がった棒に従い、動いていく。



今、このアクティビティで体験したこと、動きながら考えたり感じたりしたことについて、3～4人のグループになって感想を共有。身近なところで似たような、重なる関係性を感じたことは？ 社会で起きている現実の人間関係に繋がるところはないかも考えよう。

《二つ目の宇宙・トライアングル》

次は、誰かを操ったり操られたり…ではない宇宙を考えるアクティビティ。

- ① 最初は全員で輪になって立つ。周りを見渡して、自分と“遠い”と感じる二人を頭の中で選ぶ（実際の今の立ち位置からの距離だけでなく、今日はまだ話していないなど関係性の距離でもOK）。
- ② 選んだ二人と自分のつま先を直線でむすび、正三角形になる位置を探って移動していく。正三角形が完成したらその場で止まる。
- ③ 全員が正三角形を完成させるまで（全員

が正三角形を確認して止まるまで）動き回る。

「これって、終わりが来るの？」とドキドキしながら動き回ること数分…。全員が立ち止まるポイントが来たとき、「おお！」と感嘆の声が。



感想共有

3～4人一組になって、今体験した二つの宇宙を比べて、日常の人間関係なども重ね合わせて感想共有を行う。

全体シェア（参加者からの気づき、感想など）

- 一つ目の宇宙は力を持っている人がトップで、周縁の人をコントロールしているので悪いのではないかという意見があった。また逆に、（端にいるのは）中心の人についていだけなので楽だという意見もあった。もう一つの宇宙では妥協したという人もいた。視点を変えて、三角形の位置も譲り合っていたという気づきがあった。
- 中心の役の方からは、自分の動きを予測して周りの人たちが動いてくれていると感じた。2層目の人は（指示している人が見えているので）安心して動けた。3層目の人は自分の意図と違った動きをするので嫌だったという感想だった。中心役の方が周りを気にしてくださる方（リーダー）だったので、まだやりやすかった。もし、周りのことを気にしないリーダーだったら、周縁の人たちはもっと大変な目に遭っただろうなと思った。でも中心役の方は全くそのようなことは考えていなかったという感想だった。二つ目の宇宙は、3人の関係を保つことが目標だったので安定したときに安心した。今回は

自分と遠い人と三角を作れと指示されたが、「自分と親しい人と作れ」という指示だった場合に誰かがポツンと残されていたら、この落ち着くということは本当に良いのだろうかとも感じた。また、自分が動かなければ（妥協すれば）安定するのではないかという思いも働いた。実際の社会では、自分さえ我慢すればよい、自分が我慢すればこの場が収まるという思いを持ってしまうことがあるのではないか。一人の動きが周りにも連動するが、3人のつながりが安定すればよいので、その他の周りとは連動しないと感じてしまっているのではないか。

- 一つ目の宇宙の動きは日本的だなと感じた。二つ目の宇宙は、この人数だからこの短い時間で安定したが、もっと人数が多ければ、いつ収まるのだろう…という状況が、今の社会と同じではないかと感じた。

- 二つ目の宇宙では、自分が決めた方と正三角形をつくることを中心に動いていたが、自分のことを距離の遠い人と考えて動いていた方がいたのであれば、その方を振り回していたのではないかと思う。自分の目的や目標を達成するために、一瞬にして周りが見られなくなってしまうというのは怖いと思った。

講師より解説

一つ目の《マリオネット》は指示を出す、指示されて動く、という影響関係が役割として明確にある宇宙、対して二つ目の《トライアングル》は、そういう関係性は明示されておらず、各自が自分の選択で動いているが選んだ相手にも選んでいない相手にも影響が及ぶという宇宙だった。私たちが周りの人たちとどんな関係性を結び、影響しあっているかを、体感で考えられたのではないかと思う。

午後の部

午前の感想共有

グループで午前の内容について感想を共有した。

3. ステレオタイプとバイアス

クイズ：だれのセリフ？

まず、プリントに書かれたセリフが、スライドに投影されたイラストのどのキャラクターが発したものを考えるクイズに取り組んだ。グループで答え合わせと意見交換を行った。

老若男女とりまぜて、5人のキャラクターのイラストに、さまざまな一人称（わたし・ぼく・おれ・わし等）や語尾（だぜ、ですわ、なんじゃ等）を組み合わせたセリフを当てはめようというとき、自然と結びつけてしまう組み合わせがあることに気づくことが目的のアクティビティ。

参考)キャラクターに応じた「役割語」(金水敏)

<https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/story/2019/fyvba9>

講師より解説

アニメやドラマなどで、こういうキャラで表現されているものを「役割語」と呼ぶ。なぜこういう役割語を作るのか、このイメージを私たちはなぜ作っていて、そのイメージを普段どんなふうに使っているだろうか？役割語が効果を発揮するのは、絵本、マンガ、アニメ、映画、昔話、小説などのフィクションの世界。たとえば冒頭の短時間で人物説明を済ませたいコントなどで、役割語は便利で効果的である。そこでは言葉遣いもキャラ付けの一つとして使われているだけで、実際にそのようなしゃべり方をする人はいないことはみんなわかっている。そして刷り込みが世間にあるからこそ、逆に典型的な言葉遣いではない話し方をさせて意表を突くということもできる。



私達は実際に親しい人のことは個別理解がで

きるが、よく知らない相手、今日しか会わない、その場かぎりの人だとそれが難しいので、外見や言葉遣いなどから「こういう人なんだろう」と情報処理してしまいがちになる。つまり、役割語もステレオタイプの一種。「ステレオタイプ」と聞くと、それは偏見でよくないと思うせいか「ステレオタイプを持たないようにしたい」という人も多いが、情報処理には便利に利用できる面があり、社会的に刷り込まれるものでもあるので、誰もがステレオタイプから逃れられない。こうした心理的な仕組みがあるということを一定理解し、ステレオタイプを持っている前提で、それが差別に繋がらないようにどうしようか？を考えることが大事。

私たちは日々膨大な情報の中で生きている。そのため、頭の中のファイルボックスに無意識で情報を仕分け、処理していかなければ生きていけない。そして、そのファイルのラベル付けをする際にステレオタイプは便利。自分だけの思い込みではなく、世間に広く共有されている刷り込み・思い込みが「ステレオタイプ」なので、他者とも共有しやすいからだ。私も私の体験、経験、知識を基にラベルを作っているので、偏った自分のフィルター越しでモノをみている。

自分のかけているメガネ（フィルター）はどのような色なのか？どのような色眼鏡かを意識することが大事。こうしたセミナーや国際協会の活動に参加している人は、「〇〇人は〇〇だ」といった人種や国籍に対するステレオタイプの発言に立ち止まれるだろうが、そうでない人、多様な外国人と知り合っていない、多文化共生について知識がない人は違和感を覚えずにそうした発言を受け入れているかもしれない。

フィルターは、日々社会から刷り込まれるものなので、悪意や善意とは関係ない。悪意がなくても排除や差別は起こってしまうことがある。

たとえばアメリカのオーケストラで、1950年代には女性の団員は10%程度だったが、1970年

代後半に、団員選考の際に衝立をして受験者の容姿・性別がわからない状態で審査するようになってから、飛躍的に女性の団員が増えたという例がある。50年代から気持ちとしては、純粋に演奏技術だけ評価して選ぶと審査員も思っていたのだが、女性団員は増えなかった。物理的に音以外の情報を遮断したら女性の採用が増え、男女の比率が変わった。人間は自分と似た人に親近感を覚えやすい。これを「親和性バイアス」といい、無意識的に起きるので避けるにくい。そのため、採用試験の面談などでは、面接官を必ず複数にしたり、面接の回数を複数回設けるなどして、一人の面接官のバイアスによって採否が決まらないように、より公平な審査になるよう方策をたてている。

つまり、不利益が生じないように環境を変える、条件を変えるということも大事だということ。最初に「思いやり（人権保障や差別の是正を）頼るのは危険」という話をしたが、決心や決意だけでは防げない部分がある。だから個人の決心ややさしさに依存せず、不利益を生まないような環境を整える努力が大事ということ。

4. マイクロアグレッション

「ちドナビ」を2017年に発刊した際、当時はまだあまり知られていなかった「マイクロアグレッション」を教材にしようと府外教の教材作成チームが苦心した。当時は金友子^{きむ ともこ}さんの論文ぐらいしか日本語で読めるものがなく、ただ現場での教育実践を通してこの現象が「あるある」で、子どもたちと考えたい、考えるべきことだという一心だったそうだ。マイクロとは、「小さい・些細」という意味合いがあるが、マクロの社会に差別があるからマイクロレベルの人間関係の中でも差別が起こるということを理解してほしいという教材。

【マイクロアグレッション】

定義) 言った人の主観的な意図を問わず、敵意・軽蔑、否定的、軽視と侮辱をマイノリティに伝えてしまう差別言動

使用教材

「ちがいでドキドキ 多文化共生ナビ」

(大阪府在日外国人
教育研究協議会発行)
所収「大阪版マイクロ
アグレッションカード」



たとえば、日系ブラジル人だということが伝わった途端「サッカーうまいんやろ？」と決めつけたことばを投げかけられる。言われた側はサッカーが得意とは限らない。「なぜ、いつもいつも、そう決めつけられてしまうんだろ？」というモヤモヤが言われた側に生じる。これがマイクロアグレッションの一例。

そのとき、何が起きているのか？言われた側は、なぜモヤモヤしているのか？「サッカー得意なんやろ？」と発言した子たちは、何が伝わらなかったか？その声かけからどういう人間関係を作りたかったのか？メッセージは正確に伝わったのか？なぜすれ違いが起こるのか？そんなことを考えていくきっかけとして、大阪版マイクロアグレッションカードという教材がある。

考えるポイント1) 異なる“現実”の衝突

ステレオタイプを押し付けられるマイノリティ側からすると、いつも決めつけから入られてしまう“現実”がある。サッカーが得意なはずといったポジティブな感じがするステレオタイプこそ、悪気なく言ってしまうがちだが、言われた側にとっては、勝手に期待され、期待に合わない勝手にがっかりされるという体験までがセットになって刻み込まれる。申し訳なさ、自分が悪いような気持ちになるという心理的負担がある。

しかし、言った側はそれが理解できていない。「ブラジルと言えばサッカーでしょ。周りにはいる友だちも、日本人全体がそう思っているから」と、そこに深い考えや思いはない。ステレオタイプが厄介なのは、『社会的に共有されている、自分だけのバイアスではないので責任がない』という点。みんなそう思っているんだから、しょうがないと免罪されてしまうことで

ある。

また、「外国人は珍しい、レアキャラだから、仕方ないんじゃない」というのもマジョリティ側の感覚。学生と話していて気付くのは、いまはマイノリティに限らず誰もが「悪目立ちしたくない」「目立たないように」と注意しながら生きているという現実があるということ。今の若い世代は、より同調圧力が厳しくなっている社会に生きているように思う。

マイノリティ側からは、マジョリティ側から見える社会像とはまったく違う社会像が見えている。マイノリティはレッテル貼りされやすいと、経験上わかっている。マジョリティ側は、「みんなこういうものだと思っているよ」「あなただけがそう思ってるんだよ」と、「この社会はこういうものだ」という規範を押し付けることもでき、押し付けてしまえばそれ以上考える必要がなくなる。マイノリティ側は「日本社会に慣れないと、気にしないように強くなるとだめだよ」と言われ、マジョリティ側に合わせるという圧力を感じる。けれど、多数派は、自分たちにそれほど大きな影響力があるという認識がない。

大阪版マイクロアグレッションカードは、マイクロアグレッションになることばを言うてはならないと教えたいのではなく、言った側と言われた側の間にどんな衝突が起こっているのかを考えてもらうことがポイントだと思っている。

紹介教材

「ちがいでドキドキ 多文化共生ナビ2」

(大阪府在日外国人
教育研究協議会発行)



考えるポイント2)

マジョリティ/マイノリティとは？

マイノリティとはこういう人だというポイントを共有したうえで、ではマジョリティとは？をグループで話し合った。

《マイノリティとは》

- 自分の「属性」について、折に触れて考えざるを得ない
- 疎外感を覚える
- 差別を経験する
- ステレオタイプ的に評価される
- 差別による不利益の対象となる
- 不当なことに声をあげても、「文句ばかり」「大げさ」などと否定されがち

特に被差別属性のマイノリティについては、「就職や結婚で差別される」「(出自や属性を理由に)いじめにあうなど被害を受ける」のように、不利益な体験が「ある」人という説明ができる。しかし、マジョリティ側はそういった体験が「ない」ということなので、「ない」体験について自覚したり考えたりするのは難しい。「差別される心配をしなくていい」「ステレオタイプを押し付けられない」というのは、本人にとってはあたりまえのこと。いわば「気にしなくていい」ことがポテンシャルになっているということになる。



人権問題というのは、差別する悪い奴と差別される、かわいそうな人がいるという問題だと考える人は多い。教員志望の学生のほとんどは、そこに加えて、自分たちは差別されている人たちの味方にならないといけない立場だと考えている。でも実際には、そんなふうに分けられるわけではなく、あなたも私も、差別されることもあるし他人の足を踏んでしまう、差別してしまうこともあるかもしれないのだと理解しなければならない。

なぜなら、この社会が不平等で格差のある社会であり、その中で生きている私たちは、社会から勝手に、属性に対応するパワーを与えられ

たり奪われたりしているから。「差別される心配をしなくてよい」というパワーを与えられる人と、「差別されるのではという心配」にエネルギーを奪われる人に分けられてしまう社会だからだ。

マイノリティが持っていないものを、デフォルト(標準状態)としてマジョリティは持っている。それは、意識すら持つことが難しいこと。また、モヤモヤを感じているマイノリティの方も、それを言語化することは難しい。日々感じ取っている、見えている世界が違うので、その世界の違いから説明しなければならないという厄介さ、大変さがある。その説明をしてくれないとわからない、説明してほしいとマジョリティ側から要求されて応えなければいけないのかと悩むことも、マイノリティ側のパワーを削ぐことに繋がっている。



大阪版マイクロアグレッションカード
(©府外教)よりグループワークのようす

改めて、大阪版マイクロアグレッションカードのいくつかを用いて、グループで話し合いを行った。

話し合いの観点は、

- どのような(言外の)ネガティブ・メッセージが伝わってしまっているのか
- なぜ、それはネガティブなメッセージとして届いてしまうのか(モヤモヤのポイントは?)
- なぜ、そうしたメッセージが発言に乗っかってしまうのか?
- そこにはどんな「異なる現実の衝突」が起きているのだろうか?



【全体シェアのポイント】

現時点での、すっきりしたポイントとモヤモヤが残っているポイントについて共有しよう。

- 一つ目は、たとえば「そやねん、サッカーできへんねん」と、大らかに言い返せて、そこで人間関係がつかれるといった場合に、その彼をマイノリティと呼ぶのか？数だけでなく、人間関係や性格などを考慮すると、マジョリティとマイノリティはどう考えたらよいのか？二つ目は、普段接している高校生が、在日コリアン差別や部落差別などの問題を理解できていない。マイクロアグレッションも含めた全体の問題を取り除くにはどうしたらよいのだろうか？こうしたことにモヤモヤする。
- 言った方には悪気はない。認識もできていない。マイノリティとしての主張があれば、相手も理解できると思う。女性問題なども、実例をあげられたら理解されるが、挙げられないものはどうしたらよいのか？相手の表情が曇ってきたなど、読める・察する力があればよいだろうが、なかなか人間力というのかもしれないが、どのように解決したらよいだろうか。
- コリアンの問題などは、日常的に起こっているし、すぐに解決するものではない。言えるという人間関係、道徳の授業でマイクロアグレッションをちゃんと実践する、地域でも行わないとならない。コミュニティで取り組んでいく必要がある。
- わからないところがわからなくてモヤモヤしている。このセミナーのチラシをみて、はじめて「マイクロアグレッション」を

知った。差別は間違いだと言えるが、マイクロアグレッションは強く言えないというか、相手が悪気も攻撃性もないなかで、自分さえ飲み込めばよいのだという空気を読むという雰囲気がある。一対一だと難しい関係でも、Aのカードだと、その場面に複数人いるので誰かが「そういうもんじゃないだろう」と言えたのでは？そういうことが言える人間が増えれば解決につながっていくのではないかと思っている。



みなさんのモヤモヤ、考えたいポイントが出ていると思う。休憩後に考えるが、その前に一点補足。マイクロアグレッションについて、「悪気がない」と言われることが多いが、実際には悪気がある場合もある。はっきりとからかうつもり、相手が嫌がるとわかって発していることもある。例えば、「『お弁当』のことを中国語でなんていうの？」なら答えやすいが、「(何でもいいから)中国語しゃべってみて」は相手が困ることが少し考えればわかる。それを考えない乱暴さがある。また悪気のあるなしを問題にすると、本人が「悪気はなかった」と言えば終わってしまう。悪気と言っても、ちょっと意地悪な気持ちもあったかもといったレベルから、明らかな悪気がある、攻撃的な意図があったというものまでグラデーションがある。悪気がない、自覚が薄いものほど、言い返しにくくて厄介なことから、ワークでは悪気がない方を取り上げることが多いということを押さえておいてほしい。

5. マイクロアグレッションから 社会を考える

マイクロアグレッションを考える際のポイント

トを頭に置きながら、再度、「マイクロアグレッションが起きる社会とは、どのような社会なのか」について考える。

《Thinking Point》

- なぜ「言った人の主観的意図を問わない」のか？
- なぜ「意図」に関わらずネガティブなメッセージが伝わるのか？
- マイクロアグレッションが成立する条件とは、どのようなものか？

運命のシュート！

- ① 各自、配布された用紙を自由に加工して、前に置かれたバスケットに投げ入れる。
- ② バスケットにシュートできた人には特典が与えられる。



【ルール説明】

- 今の座席の位置から動いてはならない。
- 立ち上がるのはOK、ジャンプはOK。椅子の上に乗るのは×とする。
- 音楽が流れている約4分のあいだに、方法を考え、シュートすること。



感想共有

- (一番前の席なのに入らなかった人) 自分のコントロールが悪すぎた。座っている位置を生かせなかった。

- 自分は、どうやって投げようか考えて、丸めて何かを詰めることしか思いつかなかったが、後ろの席の人が他の人に「入れてほしい！」とお願いしていたのを聞いて、そんなやり方もあるのかと思った。
- (後方の席に座っていたが、自分の紙がシュートされた人) 圧倒的にマイノリティだと思ったが、前の席の人にも利益を分配してくださる人もいるんだと思った。
- 場所的な不利を哀れに思った人が助けてくれるのではないかと、人のやさしさを期待した。

ゲームのルールを説明したとき、後ろに座っている人はざわついていた。ゴール(バスケット)すら見えないぐらい、不利を感じた人もいたかもしれない。でも、前の席に座っている人の中には、後ろから投げられたものが当たった人もいたし、前にいたから確実に入ったわけでもない。これは、私たちの社会の在り方を考えようというゲーム。

ゲームの間流していた楽曲はBTSの『Silver Spoon (ペプセ)』という曲で、持てる者と持てないものの格差、不公正さについて歌っている。韓国には「ペプセ(小鳥)がファンセ(コウノトリ)の真似をすると股が割ける(「身の程知らず」の意)」ということわざがあり、格差の厳しい韓国社会と、そこでの自分たち(若者)の不遇をペプセになぞらえた歌詞。「持てるポテンシャルが異なるのに、同じフィールドで同じルールで競っても勝てるわけがない。ルールを変えようと言っても、今そのルールに不満がないペプセ/既得権益のある層はルールが変わることを拒む、現状維持を求める」という社会の不公正さ(構造)を表現しており、まさに今のゲームに合っているので、使用した。



座っている位置で有利不利がある。ただ、ゲームなので、前に座っている人は有利ではあるが、外すこともある。だから前の人たちもルールに則って、努力し頑張っているには違いない。そして今日のような会場であれば、会場の広さも全員の位置も見渡せるので、後ろにいる人たちが不利だとわかりやすいが、実際の社会の中で自分の立ち位置に付随した有利／不利はこうははっきりとは見えないもの。ゲームの中でも不利な人は人に頼む、紙飛行機にするなど、工夫で不利を克服しようとしたり、あるいは入るわけがないとあきらめてしまったりする。現実の社会にもこのように社会的な立ち位置の違いで生じる有利不利があり、有利な位置の人ほど気づきにくく、不利な人ほど壁を感じたり不正さに悩まされたりする。そんな社会で、どのように公正に戦えるかを考え始めると、単純な解決策は難しいと実感できる。

大阪には外国からきた子どもを対象とする高校入試枠がある。有利不利で不公平にならないための手立てだが、どうしてその子どもたちが不利であるのかが周りに理解されていないと、ずるい、特別扱いされているというふうにみられてしまう。立ち位置によって問題の見え方、感じ方の違いが出てきてしまうということだ。

不公平なイス取りゲーム

参考) 『反貧困学習』

大阪府立西成高校 (解放出版社)

社会のあり方について考えるアクティビティをもう一つ。

- Aチーム・Bチームの対抗戦イス取りゲーム
- 両チームにルールカードを配布。しっかり読んで覚えるよう指示 (カードは回収)
- どちらかのチームのメンバーが全員抜けてしまったら終了。



Aチームは有利、Bチームは不利なルールで参加している。Bチームは「座れないイスがある」という不利、Aチームは「音楽が止まるタイミングを知らされている」という有利。それぞれ相手のルールは知らない。あっという間にBチームがほとんどいなくなった。



Bチームメンバーは残り6人。全員Bチームの人が脱落している状況。

ふりかえり

- Q. 明らかに不公平なルールだったと気づいておられると思う。Bチームは何が不利だったか？
- A. Aと書かれた紙が貼られているイスには座ってはいけないというルールだった。
- Q. Aチームは有利だと思ったルールはあるか？
- A. 「皆さんがんばってください」という講師の掛けは、「そろそろ音楽が止まる」という合図だと教えられていた。

ここでBチームから「え!?!」「それはズルい(笑)」という声が上がった。

「運命のシュート」は、授業案が出ているわけではないが、『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ2』(大阪府在日外国人教育研究協議会発

行) 掲載の出口真紀子さんのインタビュー記事で紹介されている。

「不公平なイス取りゲーム」の出典は、『**反貧困学習 格差の連鎖を断つために**』大阪府立西成高等学校著（解放出版社発行）

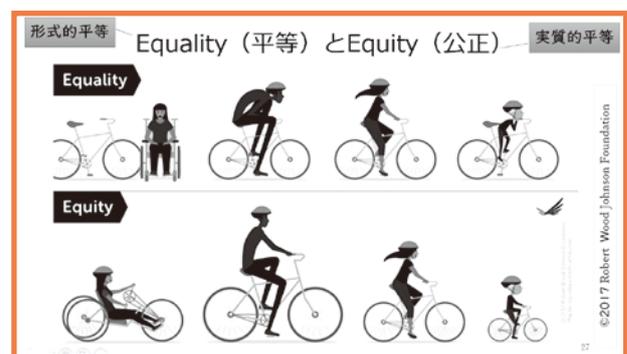
いずれにせよ、この社会はどうしようもなく不公平なのが現実。なぜマイクロアグレッションが成立してしまうのかを考える際、この不公平について、**マジョリティとマイノリティの力関係・社会にある差別と格差の問題を押さえておくことが必要**。社会状況を抜きに、マイクロアグレッションだけを理解することは難しい。

差別の問題を考える時に用いる、マジョリティ/マイノリティという言葉は、単に数の上での多い少ないを言うわけではない。マジョリティは文化や生活様式の主流を占める人びと、その社会における「普通」「規範」をつくり出すパワーを持たされた人びとのこと。習慣や暗黙のルールのようなものをつくり出し、決定権を持つ層において多数派を占める。したがって、ドミナントグループ（支配的グループ）とも呼ばれる。それに対して、マイノリティは周縁化されやすい、非主流の人びと。マジョリティが支配する「規範」を押し付けられ生きづらいつ感じると感じる人びとを指す。

実際には、100%マジョリティ要素の人、100%マイノリティ要素の人に二分できるわけではなく、すべての人が両方の要素を持ち合わせながら生きている。ひとりの人間の中にマジョリティ性とマイノリティ性の両方の側面がある。たとえば私自身は女性という面ではマイノリティ側だが、過去三代遡っても日本人で日本語ネイティブなので、外国人と対比すると圧倒的にマジョリティ側で、ドミナントな力を持つ側にある。ひとりの人間の中に両方の要素が混在しているため、他人から「あなたはマジョリティ側にいる」と言われても釈然としないということが起きる。そもそも、先ほどのゲームで考えたようにマジョリティの位置にいて有利だとしても、ゲームで負けることもあり得るし、マジョリティであることが人生バラ色を保

証するわけではない。だから個人の主観、受け止め方の問題としてとらえると、何がマジョリティ/マイノリティかが混乱してしまう。差別について考えるためには、客観的に、社会の中でどの立場に置かれているかを考えるのがポイントだ。

社会は、どうしてもマジョリティ中心にデザインされてしまうということをもう少し考えたい。以下は、自転車を全員に配る図だが、上下2種類の配り方が示されている。同じ規格、同じ大きさの自転車をみな「平等」に配ったというのが上の図。車いすの人や子どもにはこの自転車は合わない。「形式的平等」といえばよりわかりやすい。下の図は、それぞれの人に合った自転車を配った図。「公正」あるいは「実質的平等」である。



©2017 Robert Wood Johnson Foundation

このイラストをみると、明らかに困っている人がいる上の図よりも、全員がハッピーに見える下の図の方がよさそうだと思う人は多い。ただ、現実の社会では、上の図の方法が採用されがちである。なぜか？ 一番量産されていて、一番多い規格の自転車を配っているわけだが、それは、この規格の自転車に合う体格の人が数として一番多いからだ。自転車を配る側からすると、「大多数の人たちはこの自転車に乗れるのだから、この規格を選ぶのが無難だ。個別に合った自転車を配るにはコストがかかるし…」という判断であり、実際に7~8割の人たちが喜ぶので、それで良かったという気にもなりやすい。その陰で、自分には合わないと感じている2~3割の人たちの（しかもその内部でも困り感は一様ではなく、それぞれがさらに少数だから）声は届かない。

このような話をすると、「実際には下の図では手間暇とコストがかかる。複数の選択肢を用意し、ニーズ調査を行うとなると、コストの面で現実的でない」と言われることがある。ただ、そこでもう一段考えないといけないことは、本当に下の方がコストがかかるのか？ということ。合わない自転車を買った人たちは、不用品として売る、交換しに行くなど、自分たちでひと手間かけてつじつまを合わせてくれているのではない？つまり、配る側が削減した（つमりの）コストは、マイノリティ側が負担しているのではないか？ということだ。コスト削減のしわ寄せが、マイノリティの人たちにきているが、自転車を受け取って喜んでいるマジョリティの人たちがこれに気づくことは難しい。そこに際立った悪意はないけれど、マイノリティは取りこぼされている。そういうことをじっくり考えないと、つい人数の多い方、声の大きい方の意見が通ってしまい、そちらに決まってしまう。なかなか不満の声が聞こえないので、成功したと錯覚を覚えて悪循環に陥ってしまう。

差別も同じだが、「いい人」であることと「抑圧的であること」は両立する。「差別は良くない」と思うことと「無意識的に差別に加担する」ことは両立するのだ。悪意の有無に注目しすぎて、悪者探しにこだわると、かえって問題が見えにくくなる面があることに注意を払うべきである。

パワハラ等の事案に顕著だが、加害者に対して「あの人が、まさか」という声が集まることも、その人の権力性だ。それまでに築いた職務上の実績や人間関係等の蓄積が「あの人がまさか」という評価になり、それがそのままパワーになる。しかし、本人がそのパワーを自覚していないと、知らず知らず権力で部下を押さえつける結果になってしまう、自覚なく、悪気なく、周りにプレッシャーをかけ、「つらい」と思わせてしまうことが起きる。自分にどんな権力性があるかを自覚し、力の使い方を学ぶことが必要だということ。

どんなに差別について学んでいても、差別に加担することは誰にでも起こり得る。マイクロアグレッションも、なぜそうしたことが起こるのかというメカニズムを勉強して、メカニズムの途中で「これはマズいかも」と気づくためのポイントがつかめるとよいかと思う。

よく学生にはこういう喩えで話している。混みあった電車内でだれかの足を踏んだり、ぶつかったりしたくないと思って足を踏ん張って立っていても、何かに気を取られて力がふっと抜けたり、電車が急停車したりといった拍子に、だれかの足を踏んでしまうことはある。差別のある社会というのは、そんな電車のようなもの。込み合って全員が座れない、揺れもある、だからバランスを崩してぶつかる人が出てしまう。だからつり革をしっかり持とう、スニーカーを履いていこうといったふうに個人が心がけることもできるし、それは悪いことではない、良いことだ。ただ、電車自体を揺れないように改良する、揺れる前にアナウンスを入れる、つり革の長さにバリエーションを備える、運転の仕方を工夫するといった対策の方がもっと大事だということ。個人の心がけでカバーできることと電車の側・社会の側の工夫・努力との掛け算が必要。足を踏んでしまったとき、自分の心がけが足りなかったと自分ばかり責めるような考え方をしていたら、人権課題を考えること自体が重荷になり、嫌になってしまう。個人の責任に押し付けず、たとえば人権問題についているんな機会に学ぶ仕掛けが社会的に保障されている、学校できちんとプログラムが組まれている、ということも社会が努力できることのひとつ。そして社会にその努力をさせるのは、一人ひとりの私たちが社会にどう働きかけるかという問題でもある。

なぜ「言った人の主観的意図を問わない」のか？

マイクロアグレッションだけではなく、差別全般がそうだが、日本では「差別する人は悪い人」と刷り込まれているので、「なぜそんなことをしたのか？」が気になってしまうのだと思う。意図を問うのは、意図があると考えている

から。しかし先ほど話したように、無自覚的、深く考えずにやったことが、相手に抑圧的に受け取られる場合はある。そこで意図を問うても「そんなつもりではなかった」としか返ってこず、押し問答となってしまう。

差別の定義では、「基本的人権を行使することを妨げ、または害する（人権侵害を起こしている）、その目的で行われているか、または効果を有するもの」を差別としている。差別する目的を持って差別するのはもちろんアウト。加えて、目的にしていなくとも、結果的に人権を侵害した、自由を阻害し、その人らしく生きることを邪魔する効果を発揮したならば、それは『差別』であるということだ。さまざまな国際人権条約で、第1条・第2条に差別の定義が示されているが、どれも、意図的に差別することは当然いけないが、結果的に差別の効果を発揮していれば、それは差別だと記している。

「人種差別」とは、人種、皮膚の色、世系又は民族的若しくは種族的出身に基づくあらゆる区別、排除、制限又は優先であって、政治的、経済的、社会的、文化的その他のあらゆる公的生活の分野における平等の立場での人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを妨げ又は害する目的又は効果を有するものをいう

人種差別撤廃条約第一条

マイクロアグレッションに気づくために

社会に、どんな差別が埋め込まれているのかを知るためには、基本的な問題について学ぶという座学的な学びが一定必要だ。在日外国人差別、部落差別、女性差別など、〇〇差別や〇〇問題と名前が付いているものは、書籍も出ているし、論文やWeb記事といったものもたくさんあるので、そういったものを通して学ぶこともできる。知識がないと、気づけないことはたくさんある。では、知識がなければマイクロアグレッションに対処しようがないのか？というと、そうでもない私は考えている。知識は学べる機会に学べばよい。大事なものは、知らないまま放置しないこと。学べる機会にそれを学ば

うという意識を持ってもらうことが大事だと思っている。

知識がなくともマイクロアグレッションに対応できるようになるためのヒントも「人権の本質はNoだと言えること」にある。マイクロアグレッションの何が一番つらいのかというと、「これは言ってもいいのかなあ」とモヤモヤすること。「気分が重くなるからいやだな」と思っても、なかなか言いづらい、説明しづらい、じゃあどうしよう…と困ってしまう。言語化しづらい、説明しづらい。マイクロアグレッションという概念を知ったとき、在日コリアンの友人たちが異口同音に言ったのは「わかる！あるある！これってこんな名前がついている現象なんだね！」ということだった。いやだな、すっきりしない、モヤモヤする…ということがマイクロアグレッションの一つの特徴であることは間違いがないのだから、それを言いやすい関係性をつくる、というのが対応策の一つになるはずだ。「（その発言に）どんなひっかけがあるの？」といえる・聴ける関係性づくりをすることが大事。

先ほどのマイクロアグレッションカードにあった中で、外国にルーツがあることをカミングアウトするシチュエーションがあったが、カミングアウトをするマイノリティ側と、それを受けるマジョリティ側の認識のギャップが大きいことの一つだと思う。言う側はそこがスタート地点。関係性のゴールではなく、これを理解してもらった上で、次はこんな話ができたらいいな、自分のことを偽りなく話せる人がいる安心をスタートに、もっと良い関係をつくっていききたいという地点にいる。だが、言われた方は、ゴールポスト（自分）にゴールを決められたような気持ちになってしまい、そのときその場でどう対応すればいいのかという点にこだわってしまいがちになる。どう返したらよいかわからない、どのように受け止めたらよいか…と答え合わせに焦るよりも、「そうなんだね、私はまだよくわかってないけど、何かしてほしいこととかある？」「私が知っておいた方がいいこととか、読むといい本とかある？」と会話

が続く、あるいはそのときはうまく話せなくても後日またその話ができた…のように対話がつつなっていけば嫌な感じは残らない。カミングアウトに対する反応がマイクロアグレッションになってしまうのは、カミングアウトされたのに、その話題を避けようとしたり、なかったことにされる、スルーされる、といった状況に繋がったときではないだろうか。個人と個人の間のコミュニケーションの風通しをいかに良くするか？アクティブに人の話をききあえる関係性をどう作れるかということが大事。

要は最初の「“NO”を尊重する」ということ、基本的人権の基本に返って考えること。

2歳ぐらいの子どもの行動を「イヤイヤ期」と呼ぶ。まさに「嫌だ！」を言いまくる時期だが、あれは「嫌だ！」をぶつけることで、それまで自分と一体のものと感じていた「世話をしてくれる大人」が自分とは別の人間だということ、自分と他人との境界線を引いていくステップだと言われている。コミュニケーションを通して、自分の輪郭を見つけ精神的に自立していく、相手との境界線を見つけていくために“NO”が重要な役割を果たしているということ。

これは最近、文科省「命の安全教育」でも強調されているが、心や体の境界線を意識し、その線を踏み越えられたら「NOと言ってよい」と子どもに教えることが、子どもの身を守ることにつながるといえるという考え方にも通じている。

参考) 文科省Web命の安全教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html



つまり、Noを尊重されることで、対話がつな

がり、「そんなふうに見えるんだ、知らなかったからまた教えて」、というように関係性がつつなっていく。そして自分が尊重されてうれしいように、自分も相手の“NO”を尊重する、相手の人権を大切にすることを学んでいける。一方で、Noを無視されると、自分が「嫌だ」と感じるものが間違っているのか、考え過ぎ？弱いか？と自信がなくなり、嫌と言えなくなってしまう。自他の境界線を引くことは、性的自己決定の問題にもつながるが、嫌だと言えない、自信がない、自他の境界線が崩れた状態では、自分を守れない。Noと言っていていいと自信を持てるように、Noを尊重する環境で人が育っていくことが大事。これが人権教育の基本でなければならない。

第三者が鍵

差別について考えるとき、つい、差別する側・される側の二者関係で考えがちだが、二者関係にこだわると行き詰る。鍵になるのは、実は第三者、周りにいる人たちだからだ。

例えば、マイクロアグレッションかな？と思うような発言が起きている場面。言われている側はモヤモヤして、そのモヤモヤを声に出して言ってみた。そこで言った人に「気にしすぎだろ」と言われ、周りも黙っている、となると、みんなそう思っているのか、やはり自分の気にし過ぎなのか…と自信がなくなって次のことばが出なくなる。でも、周りの黙っていた人たちが、みんな同じように「気にしすぎ」と思っているわけではないかもしれない。おそらく、完全に同調している人もいれば、「でも、イヤだなんて言われたら考えた方がいいんじゃないのかな？」と迷っている人もいるはずだし、その迷いのグラデーションがさまざまにある方が自然だ。でも「気にしすぎだろ」と言った人からすると、黙って反論もしないから「みんなそう思ってるよな！」という輪に入れてしまえる。つまり自分には賛同してくれる仲間がたくさんいるという気分になるから、考え直すことも起こらない。言われた人（被害を受けた人）からしても、みんなその輪の中において、自分の味方はいない、多勢に無勢だと感じてしまう。そこで、その輪の中に巻き込まれるのではなく「私は気にしすぎだとは思えないな」「あなたは独りで

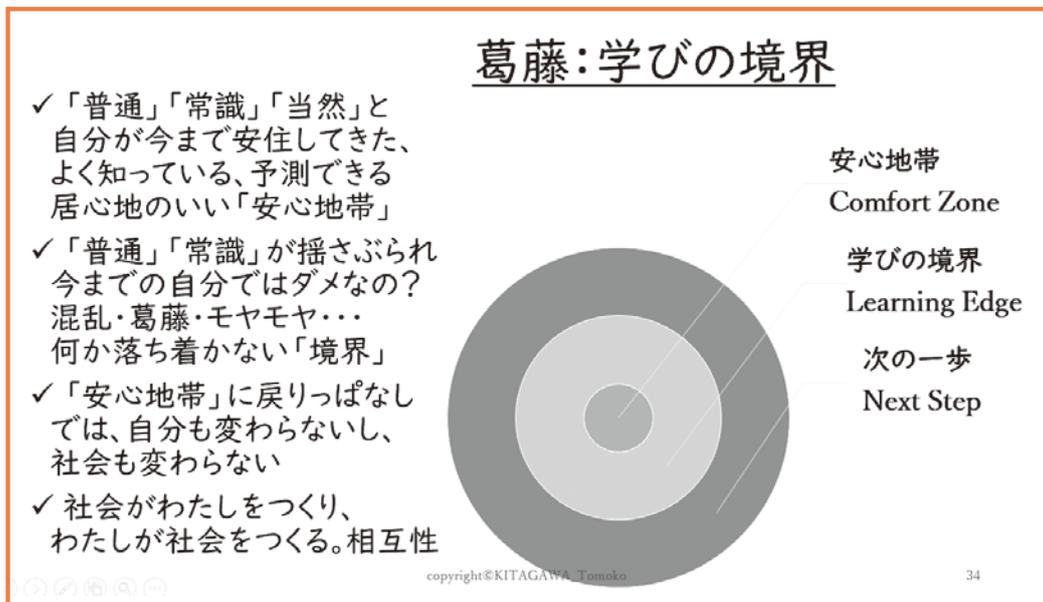
ないよ、自分もモヤモヤしているよ」と伝えたり、発言した人にそれはおかしい、間違っていると言い切る自信はなくても「この空気はなんだか自分は嫌だな…」と線を引いて、輪の中に引きずり込まれないようにすることが大事。被害者を独りにしないという意味もあるし、自分自身の「なんか嫌だな」の感覚、人権感覚を信じて守るという意味もあるからだ。また、周りがみんな自分に賛同しているわけではないと感じることで、言った側にも考え直すきっかけを与えられるかもしれない。第三者の動き、周りにいる人間が「それはあかんのじゃない?」「それはやめとこうよ」と言えるようになると、問題が二人の関係だけに押し付けられず、第三者の力を借りて次の方向性が見えていくのではないかと思う。とはいえ、具体的にどんなセリフで、どんなふうに割って入れるかを考えることについては、今回は宿題としたい。

差別はダメだと学ぶことも大事だが、自分の目の前で明らかにこれはダメだという発言が起こったときに、とっさに対応する力をつけるには練習

が必要。心がけや決心だけでは身体は動かない。イメージトレーニングをし、実際に声に出してみる練習が大切。スポーツの基礎練習と同じで、こういう時に、こう返そうとイメージしておかないと難しい。具体的なシチュエーションをイメージしながら、トレーニングして練習しておくことが大事だと思う。

学習心理学の用語で、知らないことを知ったり、常識を揺さぶられたりして居心地が悪い、葛藤のポイントを「ラーニングエッジ」、学びの崖っぷち・境界線と呼ぶ。落としどころがわからないという落ち着かなさ、モヤモヤ感を大事にして、「今私はラーニングエッジに立っているのだ」と捉え、先の道を考えるためにここに踏み止まって、じっくり考えることで、次の一歩をみつけ、コンフォートゾーン（安心地帯）を広げていけるとよいと思う。

本来、学校や社会教育などの学びの場は、安全にラーニングエッジに立ってもらえる場でなければいけない。今日もみなさんとともに、よいラーニングエッジに立てているとよいと思う。



国際教育教材体験フェアin 滋賀 2024 報告

開催日：2024年8月2日（金） 13：00～16：45

会場：ピアザ淡海 会議室（大津市） 参加者：46人

主催：公益財団法人滋賀県国際協会 共催：JICA関西 協力：Glocal net Shiga

分科会1「子ども兵士の現在^{いま} ～わたしたちにできること～」

講師 大槻 一彦 さん Glocal net Shiga（比叡山高等学校教員）

川瀬 実衣南さん Glocal net Shiga（立命館大学産業社会学部2回生）

久保田 高德さん Glocal net Shiga（立命館大学文学部3回生）

今回は大学生が考えた教材であり、実践回数の少ない教材の発表なので、より良いものに改良していくためのアイデアをいただく機会とする。川瀬さんと久保田さんが、先日、立命館守山中学校で実践した出前授業の流れを基に進めた。

1. アイスブレイク フォトランゲージ

3枚の写真を紹介。「どこの写真だろう？」

⇒ すべて「アフリカ」で撮影されたもの。今日はこのアフリカについて理解を深めてもらいたい。



高層ビルが立ち並ぶ街や、草原の中のジャッカルなどが映っている。

2. 子ども兵士すごろく

各グループに配布されたすごろくボード、コマ、名前カード（名前、年齢、人物像が記載されている）、イベントカード（色別）、サイコロを使って活動を行う。

① すごろく体験

【すごろくの進め方】

- 一人一つコマを選び、名前カードを一枚引く。

- サイコロを順に振り、すごろくのマス目に書かれた指示に従う。
- もしも亡くなってしまった場合は、その名前カードを横に置き、ふりだしに戻って、次の名前カードを引く。
- 「イベント」と書かれたマス目に止まった時には、イベントカードを一枚引き、読み上げる。

[名前カードの例]

①ミシェルくん
(5歳)
村に友達たくさんいる。

[すごろくのマス目に書かれている例]

- 銃を持った兵士に囲まれたので、仕方なく連れていかれた → 一回休み
- 抵抗したら銃で撃たれて殺された → ふりだしに戻り、次の名前カードを引く

[イベントカードに書かれている例]

- 子ども兵士は大人のために犠牲になってもよい消耗品であるとの考えから、子ども兵士同士で手を繋いで地雷原を歩かされたりしたんだよ。

はじめは「なかなか進めない」と笑い声も飛び交う雰囲気だったが、徐々に神妙な顔つきで「つらすぎる」「酷すぎる」といった声が聞こえてきた。



② 感想共有

各グループで生き残ることができた（ゴールできた）子どもの数、亡くなってしまった子どもの数をカードの枚数で確認。

グループ	1	2	3	4
生き残れた数	0人	1人	1人	1人
亡くなった数	5人	9人	14人	9人

生き残れた子どもは少なく、亡くなってしまいう子どもはとても多い。今日はゲームだが、これは現実の話。これは子ども兵士の追体験ができることをめざした。「すごろく」というと、楽しいものを思い浮かべるが、残酷なシーンなどもある。講義形式よりはゲームで体験する方が子ども兵士について理解が深まるのではないかと考えて作成した。

③ 動画視聴

「元少年兵 ミシェル・チクワニネが語る
～幼少期の経験と少年兵の実態～」

【英語／日本語字幕】

Free the Children Japanフリー・ザ・チルドレン・ジャパン

[https://www.youtube.com/](https://www.youtube.com/watch?v=8rGFtmbYtzg)

watch?v=8rGFtmbYtzg

④ 子ども兵士について説明

子ども兵士の定義は、強制的もしくは自発的に軍隊や武装グループの一員となって戦闘に参加もしくは支援に従事する18歳未満の子ども。人身取引や強制労働、児童買春と並んで、最悪な形態の児童労働と呼ばれている。ユニセフによると、世界に25～30万人いると言われている。

兵士と聞くと、男の子をイメージすることが多いかもしれないが、子ども兵士の25～30%は女の子。戦闘に加え、性暴力・性的虐待、強制的に大人の兵士と結婚させられ出産させられる

ことも多い。

子ども兵士と小型武器は密接に関わりがある。軍事技術の発達により、小型化、軽量化、自動化し、女性や子どもでも簡単に扱えるようになってきた。

なぜ、子ども兵士になってしまうのか。強制的に徴兵や誘拐される者もいれば、衣食住が担保されるので自ら志願する者もいる。武器取引や資源紛争に巻き込まれるケースがある。

また、生還した子どもたちも、身体的外傷を負っていたり、PTSD・トラウマなど精神的な傷を持って生きていくことになる。人を殺すことを強要された子どもたちが、その後どのように心の闇を抱えていくのか。倫理観や道徳観の欠落、性感染症の罹患、基礎学力がないまま、地域からの差別を受け孤立する中、どのように生活していくのか…。

子ども兵士を生み出さない国際的なルールもある。「武力紛争における子どもの関与に関する子どもの権利に関する条約の選択議定書」には、2021年時点で171の国・地域が締結している。多くの国が子どもを兵士にしてはならないことに賛同している。そのほか、SDGsの中の「SDG8 働きがいも経済成長も」のターゲット7には子ども兵士を作らないと明記されるなど、さまざまな支援や取り組みが進んでいる。

⑤ 制作者からの手紙をよむ

この手紙は、「命」「死」を扱うことの重みについて参加者に伝えるために改良を重ねる中で作成した。ぜひ読んでもらいたい。

すごろくを終えたあなたへ

私たちが作ったすごろくをしてくれてありがとう。
今どんな気持ちですか？

「たくさん子どもたちが死んでしまってつらい。」
「これが現実起きたことだなんて悲しい。」

本当にその通りです。そのことが伝えたくて、このすごろくを作りました。

「あまりにたくさん子どもたちが死ぬことに慣れてしまった自分の心が怖い。」

その「心」こそが、
「子ども兵士」を作り続けている
大人の気持ちなのです。

できるだけ多くの人に「子ども兵士」のことを伝えてください。

そして、何ができるかを考え続けてください。
私たちも考え続けていきます。

「子ども兵士すごろく」制作委員会

3. ふりかえり 私たちは何ができるだろうか？



グループで、子ども兵士の問題を解決するために何ができるかについて考え模造紙に書く。文章だけでなく、イラストなどで表現してもOK。

その後、他のグループの模造紙を見てまわった。



① すごくくを作ろうと思った経緯の紹介

川瀬さんから、「小学6年生のときに修学旅行で立命館大学国際平和ミュージアム（京都市）を訪れた時、初めて子ども兵士を知った。小中高校と、ずっと何とかしたいという思いを持ち続け、立命館大学への進学を決め、現在では同ミュージアムで学生ボランティアガイドとしても活動するに至っている。より多くの人に子ども兵士について知ってもらうためにはどうしたらよいかと考えたときに、教材をつくるという流れになった。小学生ではアクションは起こせなくても、大学生になれば何か形になることもできるようになる。」と、実体験について紹介された。思いを持ち続けることが大切だと、この日の参加者が話しておられた。

② 中学校で実践した出前授業から

立命館守山中学校の生徒を対象に50分の授業を実践し、授業後の感想から、この授業がきっかけで子ども兵士に関心を持ってくれた生徒が多かったことがわかった。何かしなくてはという気持ち呼び起こす教材にはなったのではないかと思う。

まだまだ開発途上の教材なので、この日いただいた意見を大切に、これからも改良していきたいとのことであった。

分科会2 「“情報弱者”とは何かを考える～ごみの分別ワークを通して～」

講師 森 雄二郎さん Glocal net Shiga

(京都文教大学 学部・研究科 事務部 社会連携コーディネーター)

今回は、実際に皆さんがワークショップを体験することと、実践する立場になったときにどう進めるか等についても考えていきたいと思う。

1. この教材のねらいについて

【本教材のねらい】

外国人住民のごみ問題を題材に、社会問題への当事者意識、他者への配慮など『共生』マインドの醸成を図る。

私たちの潜在的な意識

多文化共生についてのアンケート調査（滋賀県2020）対象：349名

○安心して暮らし活躍できる地域社会にしていけるには何をすべきか？
（日本人の回答・複数回答）

外国人がすべきこと		日本人がすべきこと	
日本の習慣や生活ルールを守るようにする	74.5%	日本での生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける	35.8%
日本語や日本の文化を学ぶ	56.2%	外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	38.7%
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	57.3%	地域住民との交流や地域の活動に参加するよう呼びかける	35.2%

問題は「外国人にある」という意識の表れ？

「共生」とは、外国人だけの問題なのかということ問いかけてみたい。「多文化共生についてのアンケート調査（滋賀県2020）」の結果を例に、日本人側が、外国人の困りごとは外国人住民自身の問題だという認識が高い傾向にあ

ると読み取れる。「多文化共生」と掲げて外国人と仲良くしようと呼びかけているが、日本人側は当事者意識が薄く、外国人自身の問題としてしか意識していないのではないかと問題提起された。



「共生」について異文化接触における行動変容（マトリックス）で解説

2. ワークショップ体験「ごみ分別ワーク」

情報弱者といわれる中でも日本社会において言語や文化背景の違い、地縁的な結びつきの少なさと言った要因によって必要な情報やサービスにアクセスできていない外国人に焦点を当てたワークとしている。

① 分別ルールに従ってごみを分別してみよう (他者の立場や視点に気づく)

分別シート（9種別）を机に広げ、絵カードに描かれたごみを、外国語版分別ルールマニュアルの資料を参考に、実際に分別する。わからなければ、グループで相談して進めるよう指示があった。

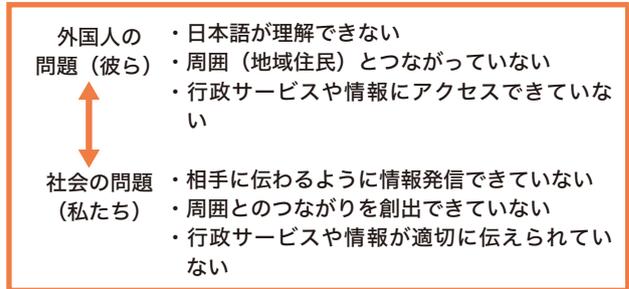


② ごみ分別ができないのは誰のせい？

今回は草津市が作っている多言語版の分別ルールを資料として紹介した。実際に分別作

業をしてみて、皆さんはどんな感想を持っただろうか。もし、日本語だけのマニュアルしかなかったら、外国人住民は分別できるだろうか？

【外国人が情報弱者になる原因】



外国人の困りごとが解決するように助けてあげようという意識ではなく、これは社会の問題、私たちの問題として捉え、外国人だけの問題ではないと意識を持つことが必要。そのためには、外国人が今置かれている状況などを理解することが大事だということで教材化してみた。

3. ワークショップ体験「ごみステーションの標識を作ってみよう (他者への配慮を具体化する)」

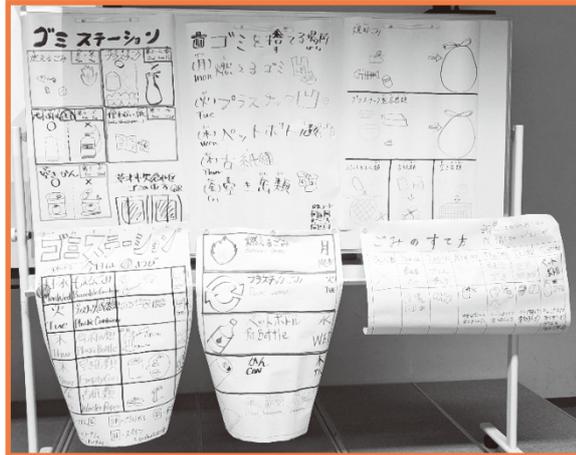
① ごみステーションの標識を作ってみよう

より多くの人たちが情報をキャッチできるようにするための情報発信の方法、ツール、チャンネルの持ち方を考えていきたい。文字の大きさや色など必要だと思われる要素を書き入れてもらいたい。



② グループ発表

各グループが工夫した点、難しかった点などとともに作った標識を発表した。



③ ふりかえり

今回のワークでは、情報弱者を減らすために私たちは何ができるかということを考えてみた。標識を作る中で、以下の項目について視点を持てたか、意識していたか点検してみよう。

ワークのまとめ (情報弱者を減らすために私たちにできること)

1. 相手にとって必要な情報は何かを考える
2. 相手にとって分かりやすい表現方法を見つける
3. 「伝えた」ではなく「伝わっているか？」
4. 正解ではなく、最適解を探る（多角的な発信）
5. いつでも、どこでも、誰に対しても、実践できる
(外国人支援ではなく、ユニバーサルデザインの視点)

本日のまとめ (本教材のねらい)

1. 誰もが関わる身近な問題（当事者意識を持ちやすい）
2. 相手の側に立つ体験（共感を持たせる）
3. 正解のない問いを一緒に考える（価値観のすり合わせ）
4. 外国人の問題を鏡にして、社会（自分）の問題に気づく

「共生（ともに生きる）」という大きな命題へ

こうしたワークには正解というものはないので、みんなとともに考える体験ができるところがよい。「共生（ともに生きる）」マインドを育む、「多文化共生は外国人だけの問題ではなく自分事」として引き付けるための体験になればよいとイメージして作成した。

汎用性も高いので、今後も改良していきたいと思う。

分科会3「世界に目を向けよう～地球市民の一員として～」

講師 山越 栄太郎さん Glocal net Shiga (大津市立真野小学校教員)

講師の自己紹介として、小学校の教員で、2018-2020年の間、JICA海外協力隊としてカンボジアで活動をした経験などを紹介。



プ4人に共通する点をできるだけ多く出し合ってみよう。最もユニークな共通点があったグループにはユニーク賞を進呈。

② みんなでそれ正解！「○○○といえば？」

ひとり一枚付箋を配る。「○○○といえば？」という質問をいくつかする。グループ4人全員が同じ答えを出したら4点、3人なら3点、2人なら2点、1人なら0点。二人ずつが同じ答えを出したら2点×2=4点。

【質問】

- 「滋賀県といえば？」
A. びわこ 全員一致！
- 「コンビニエンスストアといえば？」

1. アイスブレイク

① 共通点探し

自己紹介を一人1分ほどしたあと、グルー

- 「人気のチョコレート菓子といえば？」
- 「プチプラファッション（ファストファッション）ブランドといえば？」

「自分と世界とのつながりに気づく」ことをねらいとして作成した教材。小学生高学年を対象として考えた。小学生の気持ちになって参加してもらいたい。

2. 写真から考える

① 写真を見て考えたことや気づいたことを書き出す

世界のどこかで起こっている出来事に関する写真3枚を紹介。各グループに写真を配布し、気づいたこと等を赤い付箋に書き込み、写真の周りに貼り付けていく。



② 気づいたことについて発表

写真1 カカオ農園の子ども

- ・チョコレートを食べたことはあるのかな？
- ・子どもが包丁のようなものを持っているのが危ない。
- ・学校はどうしているんだろう？
- ・なぜよそ見しているんだろう？

写真2 チリ アタカマ砂漠 捨てられた衣類の山

- ・ごみやばい！
- ・どこなんだろう？
- ・なぜ砂漠にこんなごみがあるんだろう？
- ・ごみなければ、きれいな景色なのに

写真3 プラスチックを食べようとしているウミガメ

- ・プラごみが多い 食べちゃう
- ・プラごみが多く、カメが間違っって食べちゃうそう
- ・誰が捨てたんだろう？
- ・ごみのわりに、水はきれいな

3. 自分とのつながりを考える

- ① 自分とのつながりを考え、付箋に書く
先ほどの写真と自分とのつながりを考えて、青い付箋に書いてみよう。

「つながりヒント」の紹介

- カカオはチョコレートやココアの原料
- 日本が輸入するカカオのうち70%がガーナ産
- 日本で1年間にごみに出される衣服は47万トン
- 衣類ごみ47万トンのうち約45万トンは焼却や埋め立てで処理されている 45万トンは、毎日大型トラックで120台分の量に相当
- 世界では毎年約800万トンのプラスチックごみが海に流失している ジェット機5万機分
- 日本のプラスチックの生産量は世界第3位 一人当たりのプラスチック容器の廃棄量は世界第2位

② 地球的課題と自分とのつながりを考える

今書き出した青い付箋を、先ほど書いた赤い付箋とのつながりを見つけて貼っていく。かならず、グループの人たちと話しながらか貼り込んでいく。



③ グループ発表

写真1 カカオ農園の子ども

- ・自分が食べているかも
- ・この子たちがいないと、自分たちのチョコレートがなくなってしまう… 嫌だな
- ・安い賃金で働いてくれているから、自分たちは安いお金でチョコレートを買えるのかな

写真2 チリ アタカマ砂漠 捨てられた衣類の山

- ・着るものがあるのに、なぜ新しいものが欲しくなるのかな？

- ・ごみから環境汚染につながったら嫌だな
- ・大切に着ていく、だれかに譲るなどの方法があるのに、安く売っているのを買ってしまう、自分が捨てたもののその先については思いが巡らない
- ・ごみを減らしたいけど、減らすことで困る人もいるのかな？

写真3 プラスチックを食べようとしているウミガメ

- ・ごみ箱ってなんのためにあるんだろう？使えるものまで捨ててしまっていないかな？
- ・生態系が変わるなどして、自分たちの生活にはどんな影響が出てくるのか心配
- ・スタバの紙ストローに文句を言いたくなる自分たちもいる。なぜプラスチックはダメなのかを考えるきっかけになるか？
- ・マイバッグにしようかな

④ SDGs とのつながりを考える

自分たちが付箋に書き出した内容とつながりがあると思うSDGsカードを置いてみよう。



私の場合は、6年生の総合的な学習で使った。このアクティビティを体験した後、調べ学習の時間を設けて、最後に「地球市民宣言」をするという流れで進めた。

子どもたちに何について考えてもらいたいのか、というねらいをしっかりと持ち、写真を選んだり、アクティビティやまとめ方などに工夫していくことが大事だと思う。

さいごに、今回の教材を自分ならどのように使うのかについてグループで意見交換の時間が設けられた。

分科会4 「多文化保育～外国にルーツのある子どもと

その親の困りごとを考える『読めないお知らせ』～

講師 平野 知見さん Glocal net Shiga

(京都文教大学 こども教育学部 こども教育学科 准教授)

講師による自己紹介

大学時代、オーストラリアで過ごし幼児教育を学んだ。90年代当時、オーストラリアの保育園で3歳児の担任を任されたある日、子どもにいきなり「宗教はなに？」と聞かれて、特にないと答えると「Oh, no!」というリアクションが返ってきたことが強烈に記憶に残っている。

当時、オーストラリアの幼児教育の免許を取ると、小学2年生まで教えることができたため、数か月だけ、シドニーの小学校で仕事をすることがある。時間割の中に毎週1時間、宗教の時間が設けられていた。さまざまな宗教ごとに部屋に分かれ、地域の各宗教リーダーの方が学校に来られてお話を聞くということがされていた。

日本で3歳児が宗教とともに暮らしているかという、なかなかいないかもしれない。宗教と人生が表裏一体となっているのは、オーストラリアならではなのかと思う。

現在は、コロナ禍をきっかけにはじめた子どもたちの居場所づくりやその活動に携わる人材の養成などにも取り組んでいる。

1. 多文化・多文化教育とは

① 「多文化」「多文化教育」との出会い

はじめて「多文化」という言葉に出会ったのは、2000年頃。書店で、「入門多文化教育」(J.A.Banks 平沢安政訳 1999)という本との出会いだった。この本には、主にマイノリティの人権を尊重するということが書かれていた。

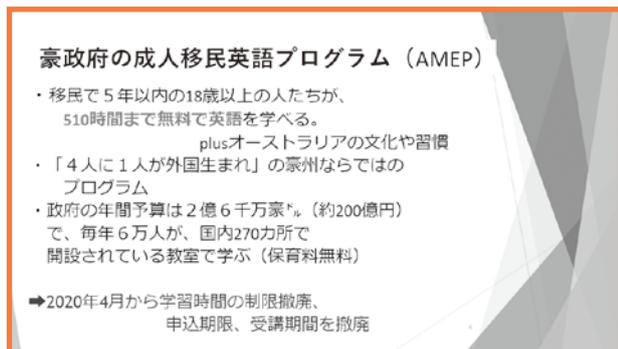
私は大学で保育士養成に携わっているが、カリキュラムの中に「多文化保育」という科目や授業はない。学会でも、多文化保育は外国にルーツを持つ子どものみを対象としてい

ると受け止められているのが現状。

② オーストラリアでの多文化保育の領域

オーストラリアでは、多文化保育の領域には以下が含まれていた。

- 宗教、民族
- 年齢、性別、ジェンダー（性的指向）
- 障がいの有無
- 文化（食文化・習慣）
- 社会階級 など



オーストラリアで幸せに暮らしていくために、英会話以外にも文化や習慣も学ぶことができる成人移民英語プログラムがある。2020年4月から、このプログラムを受ける時間制限や受講期間が撤廃され、受講期間中は保育も無償で受けることができる。英語力を高めたい方、英語力には問題ないと思われるレベルの人たちもスキルアップを目指して継続してプログラムを受けている人もいる。

③ オーストラリア絵本の紹介

多文化保育の領域の中には「ジェンダー」もあり、関心が高まっている。数年前にA市の保育現場で就学前の子どもが性的指向を理由にいじめに遭い通えなくなったという事例で、最終的には、いじめと認定されなかったというニュースの報道に、個人的には大きな衝撃を受けた。就学前の子どもたちは、自分の性についての認識はまだ確立していない段階であるのに、日本の保育園ではまだまだジェンダーに対する意識が低いと感じている。男だから女だからという決めつけは、基本的には大人がしている。先生や親の言葉が子どもたちの意識に影響を与えている。

絵本「LOVE makes a family」では、どんな家族構成であっても、大事なものは「家族」で、それは「愛」であると描かれている。オーストラリアではLGBTQの同僚がいた。オーストラリアの保育園に対する第三者評価は厳し

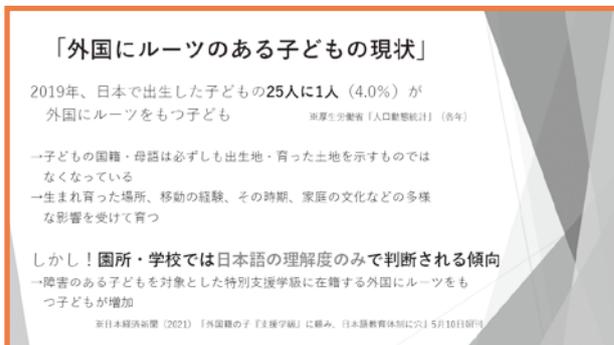
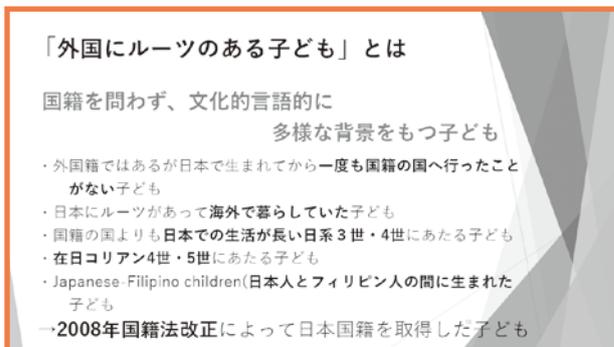
く、職員の構成についてもポイント制が定められており、外国にルーツを持つ人やジェンダーを意識した職員構成がされているかなどが重要視されていた。こうしたLGBTQをテーマとした絵本もたくさん保育園には置いてある。日本語の絵本もたくさんあるので日本の保育園などにも置いていただけたらと思う。

④ 子どもたちを表現する言葉の現状

外国にルーツを持つ子どもを表現する言葉として決まった表現はない。

例) 外国人児童生徒、外国にルーツのある（をもつ）子ども、外国につながる子ども、多文化な子ども など。

こうした表現に違和感を持つ当事者がいるということも認識しておく必要があるかと思う。



特別支援学級に在籍する外国ルーツの子どもたちが増えているというニュースもある。ますます外国ルーツの子どもが増えていく中、大学や短大を卒業し、教員や保育者として従事する際、教育・保育現場の現状を知らないことは問題だと感じている。

⑤ 園所に関わる親の困りごと

- 大量の配布プリント
- 連絡帳 ⇒ 読めない、書けない
- 運動会（行事）、お弁当のつくり方

事例紹介 インド出身3歳児の日本の幼稚園でのエピソードを紹介。

⇒ 父はエンジニア、妻と娘を帯同してきたケース。母親は日本語での会話は難しかった。お弁当の文化のない保護者なので、遠足の前日に、お弁当の用意が必要であることを母親に伝えるため、担任が「Rice ball」と言いながら折り紙で作ったおにぎりを見せ、「in!」と言ってカバンに入れる仕草をして伝えた。「大丈夫?」と声をかけると「大丈夫」と応答があったので、担任は、ちゃんと伝わったから大丈夫と安心していた。しかし、遠足当日、お弁当の時間に、驚くべき光景があった。その子のカバンから出てきたのは、折り紙でできたおにぎりだった。周りの子どもたちから笑われ、好奇の目でみられたその子どもの気持ちと、母親が慣れない手つきで折り紙のおにぎりを一生懸命作ったのだらうと想像すると、感極まるものがあった。このときから、教員も子どもたちも、この子たちへの関わり方に変化があった。

別の機会に当該児が、二段弁当を持ってきたのでドキドキして様子を見てみると、一段目にロールパンが2つ、二段目にもロールパンが2つ入っていて驚いたが、本人はうれしそうに食べていた。私たちはちがいに敏感になりがちだが、子どもたちは人と同じことによるこぶ傾向があると思う。

大量のプリントは、どれが大事なもののなか、日本人の保護者にとっても困りごとである。そのため、外国人の保護者のために滋賀県内の学校の先生が、ポルトガル語で「重要」と書いたスタンプを作製され、大事な通知だということを伝えたという例もある。

定住化・長期化の傾向

- ・母語が未習得な上に日本語がうまく話せない子ども
- ・文化のダブルスタンダード（二重の基準）に悩む子ども
- ・親子間でのコミュニケーションに悩む子ども

⑥ 保護者の悩み

- 言葉の壁（日本語）
- 制度・文化の壁
- ころの壁

これから、こうした外国人保護者の悩みについて理解するためのワークを実践したいと思う。

2. アイスブレイキング

① 指キャッチ

左手で輪を作る。右手は人差し指をとなりの人の輪に入れてスタンバイ。

講師の「キャッチ」という声かけにあわせて、隣の人の指を捕まえるというもの。

「キャッキャッキャ キャロット」など、フェイントを挟みながらやると盛り上がる。言葉が通じない人とも笑いが起こるアクティビティ。



② 「ハイ イハ ドカーン」

両手を前に出し、一人の人の手の上に両手を順番に重ねていく。

「ハイ」の号令で、一番上の人の手を一番下に置く。「イハ」と言われたら、一番下の人の手を一番上に置く「ドカーン」といったら、一番上の人が手を振り下ろして誰かの手を叩く。

3 ワークショップ「読めないお知らせ」

① 家族で通知文の内容を読み解く

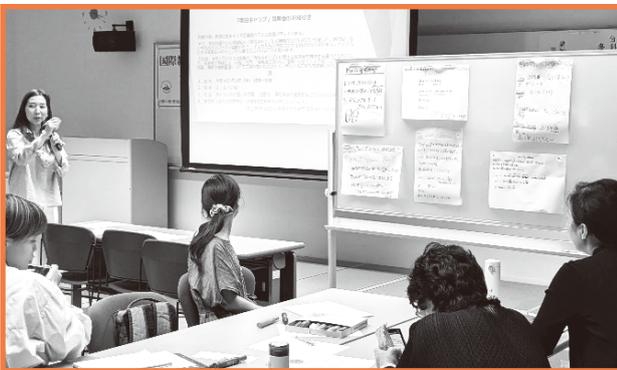
家族の事情で外国の地方都市に暮らすことになった。子どもは現地の学校に通うことになったが、ある日、大事な通知が届いた。グループで読み解いてみよう。

⇒外国語で書かれた学費納入に関する通知だった。



② お知らせの書き換え体験

宿泊キャンプ説明会のお知らせを外国人保護者に伝わるように、書きかえてみよう。（ポスターワーク）



相手に伝わるようにという想いの詰まったものになるかと思う。

2001年頃に県内の保育園を巡っていた時に、「多文化」って難しい、外国ルーツの子どもがいてもうまく付き合っているという反応だった。

先ほど事例として紹介したインドの子どもに、「トイレ、おしっこ」という言葉は緊急の言葉として最初に教えた。園でお漏らしすることは、子どもにとってはとてもプライドが傷つくこと。ある日、その子が幼児用のトイレで、便座の上に仁王立ちし、立ちながらおしっこをしていた。

インドでも地域によって文化は違うが、もしかしたら、そうした排せつの仕方を見たのかもしれない。彼女は3歳児だが肌もダークで、背も高かったので、ある先生が「恐竜みたい」と発したことから、周りの子どもたちもその子のことを「怖い」と言い出し、保護者たちから「辞めてほしい」という声が上がってしまい、力不足を感じたことがある。私一人では限界があるが、多文化を理解してくれる先生や保護者の輪が広がっていくとよいなと感じた。

保育通訳の必要性もずっと感じている。また、2019年に朝日新聞の宗教食についてインタビューを受けたことがある。記事が出た後、炎上したと連絡があった。「アレルギー食は大事だけど、宗教食は重要じゃないだろう」という声がほとんどだったそう。今の時代、教育・保育現場において宗教食に関するマニュアルが策定（すでに作成しているところもあるが）・活用されることが今後より必要になってくるだろう。

【教材の紹介】

- ◇ 読めないお知らせ（かながわ開発教育センター：K-DEC）
- ◇ ポスター：いま、どんなきもち①・②（大阪府人権教育研究協議会）
- ◇ コミュニケーションカード、フィーコロ、シール（特定非営利活動法人ちやいんどネット大阪）
- ◇ 「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起こった？（震災編）（公益財団法人滋賀県国際協会）

通訳機器やアプリを使う際には伝えようとする気持ちをもつことが大事。心をどうやってつなげていくかということが大切。

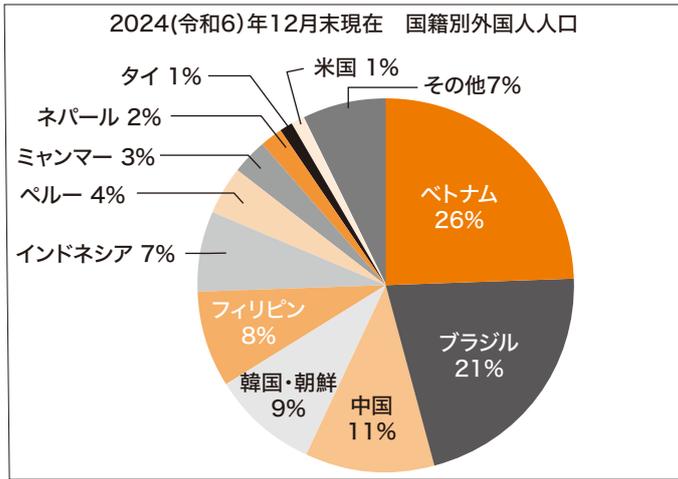
さいごに

どの国の子どもたちであろうと、多くの多様な人たちと関わりながら自信をつけ、地域の子どものために育つための援助が大事だと思う。今日本では、「多文化」というと「特別なこと」「大変なこと」と受け止められがちだが、これから5、10年はあつという間なので、その頃には多文化な子どもたちが当たり前になっていて、「多文化保育とは何か」というテーマを掲げた研修の必要性がない時代が来ることを願っている。

資料集

- ◇ 滋賀県における国籍別外国人人口
- ◇ 国際教育研究会 Glocal net Shiga 活動報告
- ◇ 国際教育・開発教育貸出教材の紹介

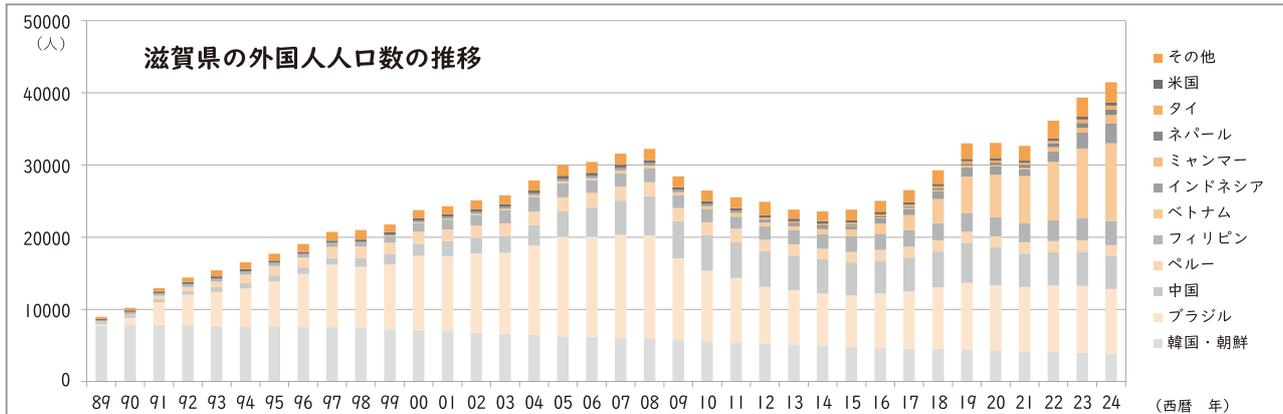
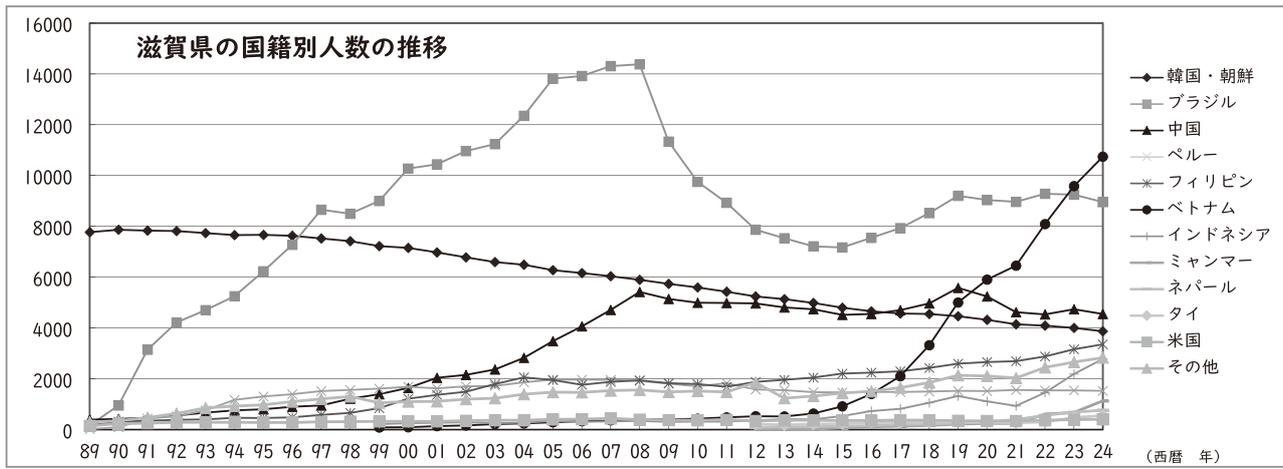
滋賀県における国籍別外国人人口



公益財団法人滋賀県国際協会 作成

国籍	人口数	前年度比
ベトナム	10,742人	1,157
ブラジル	8,954人	△297
中国	4,555人	△185
韓国・朝鮮	3,871人	△131
フィリピン	3,358人	193
インドネシア	2,782人	591
ペルー	1,529人	△19
ミャンマー	1,133人	456
ネパール	764人	79
タイ	553人	81
米国	402人	9
その他	2,832人	175
合計	41,475人	2,109

* 国籍数等：97 国籍・地域



外国人人口の比率が2%以上の市町（2024年12月末現在）

市町名	外国人人口(人)	総人口(人)	外国人比率(%)	備考(上位4国籍)
1 湖南市	4,011	54,030	7.42%	ブラジル 1,467人, ベトナム 983人, ペルー 353人, インドネシア 338人
2 愛荘町	1,188	21,037	5.65%	ブラジル 575人, ベトナム 231人, フィリピン 139人, ペルー 61人
3 甲賀市	4,741	87,741	5.40%	ブラジル 1,691人, ベトナム 1,176人, フィリピン 354人, ペルー 349人
4 日野町	974	20,699	4.71%	ブラジル 361人, ベトナム 334人, 中国 44人, インドネシア 39人
5 東近江市	4,937	111,349	4.43%	ブラジル 1,564人, ベトナム 1,482人, フィリピン 545人, インドネシア 288人
6 豊郷町	260	7,115	3.65%	ブラジル 108人, ベトナム 59人, フィリピン 41人, 中国 20人
7 長浜市	4,058	112,294	3.61%	ブラジル 1,504人, ベトナム 882人, フィリピン 380人, 中国 379人
8 彦根市	3,874	110,878	3.49%	ベトナム 1,337人, 中国 523人, フィリピン 482人, ブラジル 467人
9 近江八幡市	2,231	81,925	2.72%	ベトナム 926人, ブラジル 337人, フィリピン 195人, 中国 188人
10 草津市	3,552	140,515	2.53%	ベトナム 994人, 中国 864人, 韓国・朝鮮 457人, フィリピン 226人
11 栗東市	1,732	70,412	2.46%	ベトナム 504人, ブラジル 245人, インドネシア 202人, 中国 175人
12 野洲市	1,152	50,607	2.28%	インドネシア 395人, ベトナム 284人, 中国 111人, 韓国・朝鮮 103人
県全体	41,475	1,405,194	2.95%	ベトナム 10,742人, ブラジル 8,954人, 中国 4,555人, 韓国・朝鮮 3,871人

※滋賀県総合企画部国際課の調査に基づく。

※2011年(平成23年)12月末までは外国人登録者数、2012年(平成24年)12月末以降は住民基本台帳人口による。

※2013年(平成25年)12月末の統計より「中国・台湾」で統計をまとめていましたが、2019年(令和元年)12月末統計より「中国」「台湾」で統計をまとめています。

※県民34人(33.88人)に1人が外国人。

「国際教育研究会 **Glocal net Shiga**」について

私たち、「国際教育研究会 **Glocal net Shiga** (くろーがる ネット しが)」は平成15年(2003年)4月に立ち上がったグループです。名前にある“**Glocal**”とは**Global + Local**を結びつけた造語です。“**Think Globally, Act Locally**”(地球規模で考え、地域から行動する)という開発教育/地球市民教育/グローバル教育の地域社会に対する考え方を表すことばがあり、地球と地域を結ぶことばとして生まれました。

このような考え方をうけ、地元滋賀(**Shiga**)で地域に根ざした人たちをつなぎ(**Network**)、みんなで一緒に地球市民を育む活動に取り組んでいきたいという思いが込められています。

会のねらいについて

- 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること **多様性の尊重**
 - 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと **多文化共生社会づくり**
 - 世界と自分とはつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること **相互依存関係の理解**
 - 地球的課題を解決するために行動すること **公正・平和な社会づくり**
- など

こうしたことを**ねらい**として、さまざまな実践方法(おもに参加型学習法)を学びながら、国際教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊OVなど、さまざまな立場や経歴の持ち主が参加しています。

これまでに滋賀県の特徴を生かした題材をとらえ、「**ブラジルボックス**」・「**わたしん家の食事から**」・「**非識字体験ゲーム 『ここは、何色?』『はじめてのお見舞い』**」・「**『言葉がわからない』体験ゲーム 何が起こった?(震災編)**」などの教材を開発してきました。また、より多くの方に国際教育を体験していただくよう年数回、国際教育ワークショップを開催しております。

今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

入会について

毎月1回日曜日に例会を開催しています。さまざまな経歴のメンバーが集まるクラブ活動のような会です。渡航経験や語学力については、まったく心配していただく必要はありませんので、この研究会にご関心のある方は、お気軽に下記までお問い合わせください。

国際教育・開発教育についての企画相談、講師派遣も随時承ります。

<お問合せ先>

公益財団法人滋賀県国際協会 担当 大森
〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
電話:077-526-0931 ファックス:077-510-0601
E-mail:omori@s-i-a.or.jp

2024年度（令和6年度）の主な活動について

開催日	内 容
4/21	JICA滋賀デスクよりニカラグア（うみのこ交流など）報告、次世代人材育成事業「多文化共生×SDGs×開発教育」連続セミナープログラム内容について、国際教育教材体験フェア（兼）滋賀県総合教育センター自己啓発研修「国際理解」分科会・講師について話し合い、分科会デモンストレーション体験
5/19	次世代人材育成連続セミナー ファシリテーター・プログラム内容について、国際教育教材体験フェア分科会・講師について、次年度次世代人材育成事業の企画内容について話し合い
6/23	次世代人材育成連続セミナー ファシリテーター・プログラム内容について、国際教育教材体験フェア分科会デモンストレーション体験
7/27	国際教育教材体験フェア 分科会のデモンストレーション体験、次世代人材育成連続セミナー（第2回 ブラジル人学校の生徒との出会い プログラム内容など）について話し合い
8/2	国際教育教材体験フェアの運営・参加
9/14	次世代人材育成連続セミナー オptional企画「学習支援教室『ワールドアミーゴクラブ（WAC）』訪問」への参加
9/21	国際教育教材体験フェアふりかえり、次世代人材育成連続セミナー第2回報告、次年度事業助成申請について、今年度国際教育ワークショップのテーマ・講師候補について話し合い
9/28	次世代人材育成連続セミナー第3回「日本で子育てする外国人保護者との出会い」への参加
10/19	次世代人材育成連続セミナー第4回「さまざまな宗教との出会い 神戸スタディツアー」への参加
11/10	次世代人材育成連続セミナー オptional企画「県内モスク訪問」への参加
11/24	次世代人材育成連続セミナー第3～5回報告、次年度の活動（教材づくり）について、オリジナル教材案のデモンストレーション体験
12/14	次世代人材育成連続セミナー第6回 多文化共生に関する講演および受講生によるアクションプラン発表会への参加など
12/22	次世代人材育成連続セミナー報告、JICA海外協力隊活動報告（モザンビーク）、JICA企画調査員活動報告（ガボン）、次年度の活動（教材づくり）について
1/11	国際教育ワークショップ in 滋賀 2024 「日常に埋め込まれた差別に気づく～マイクロアグレッションについて～」への参加
2/15	国際教育ワークショップ報告、新しい「ユネスコ教育動向」について解説、次年度の活動（教材づくり）について（既存教材デモンストレーション体験）
3/17	米国移民にまつわるワークショップ実践報告、ウズベキスタン最新レポート、次年度国際教育教材体験フェア 分科会について、次年度の活動（教材づくり）について話し合い

【活動の様子】



ニカラグア版うみのこ交流報告



「ゴミ分別ゲーム」デモンストレーション

国際教育・開発教育教材の紹介および貸し出し規定について

公財) 滋賀県国際協会

当協会では、国際教育および開発教育に関する資料・教材（ビデオ等も含む）を722点（2024年度末現在）所蔵しており、自由に閲覧・視聴することができますので、お気軽にご利用ください。
なお、当協会ホームページからも教材目録、貸出申請書様式が入手できます。

<https://www.s-i-a.or.jp/inquiries/lending>

<利用について>

- 閲覧・視聴 どなたでもご自由にご利用いただけます。
ただし、事務所に保管しておりますので、閲覧を希望される場合は、職員にその旨お伝えください。

- 利用時間 月曜日から金曜日まで（土日祝日を除く） 午前9時から午後5時まで

- 貸 出 原則として、会員および団体（学校を含む）に限ります。
所定の貸出申込書にご記入の上、当協会窓口にご提出ください。
貸出期間：2週間以内（申請により期間延長可能）
貸出冊数：1回5点以内

- 返 却 当協会窓口まで直接ご返却ください。やむを得ないと認められる場合は、借受側の料金負担のもとに郵送・託送を認めます。
なお、破損、紛失の場合は実費をご負担いただきます。



貸出教材の一部

<お問合せ先>

公益財団法人 滋賀県国際協会

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
電話 077-526-0931 ファックス 077-510-0601
HP <https://www.s-i-a.or.jp> E-mail info@s-i-a.or.jp

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
1	0-0 概論 1	NGO スタッフのための国内事業ハンドブック	開発教育協会	ブックレット
2	0-0 概論 2	参加型 ワークショップ入門	明石書店	書籍
3	0-0 概論 3	テキスト国際理解	国土社	書籍
4	0-0 概論 4	国際理解教育 地球市民を育てる授業と構想	国土社	書籍
5	0-0 概論 5	国際理解 重要用語 300 の基礎知識	明治図書	書籍
6	0-0 概論 6	南北問題と開発教育 地球市民として生きるために	垂記書房	書籍
7	0-0 概論 7	開発教育 2006 Vol.53 特集 開発教育と教材 / スポーツと開発教育	明石書店	書籍
8	0-0 概論 8	地球市民教育のすすめかた	明石書店	書籍
9	0-0 概論 9	はてな? なぜかしら? 国際問題 全3巻	教育画劇	書籍
10	0-0 概論 10	開発教育 2003 No.47 特集 開発教育のこれまでとこれから	開発教育協会	ブックレット
11	0-0 概論 11	開発教育 2004 No.49 特集 平和を築く学び	開発教育協会	ブックレット
12	0-0 概論 12	開発教育 2004 No.50 特集 地域から描くこれからの開発教育	開発教育協会	ブックレット
13	0-0 概論 13	開発教育 2005 No.51 特集 いのちを育む学び	開発教育協会	ブックレット
14	0-0 概論 14	開発教育 2005 No.52 特集 国際協力と開発教育	開発教育協会	ブックレット
15	0-0 概論 15	開発教育実践の手引き 開発教育ガイドブック 2	国際協力推進協会	ブックレット
16	0-0 概論 16	「開発教育」ってなあに? 開発教育 Q&A 集 改訂版	開発教育協会	書籍
17	0-0 概論 17	開発教育キーワード 51 開発教育ブックレットシリーズ No.5	開発教育協議会	ブックレット
18	0-0 概論 18	新しい開発教育のすすめ方	古今書院	書籍
19	0-0 概論 19	新しい開発教育のすすめ方Ⅱ	古今書院	書籍
20	0-0 概論 20	World studie 学びかた・教えかたハンドブック	国際理解教育センター	書籍
21	0-0 概論 21	地球市民を育む学習・Global teacher, Global learner	明石書店	書籍
22	0-0 概論 22	DEAR News 100号～	開発教育協会	ニュースレター
23	0-0 概論 23	開発教育 2007 vol. 54 特集参加型開発と参加型学習	開発教育協会	書籍
24	0-0 概論 24	いっしょに ESD! 環境・人権・参加の新世紀教育	国際理解教育センター	ブックレット
25	0-0 概論 25	「地球時代」の教育とは	岩波書店	書籍
26	0-0 概論 26	地域から描くこれからの開発教育	新評論	書籍
27	0-0 概論 27	開発教育 2008 vol. 55 特集 開発教育と市民性	開発教育協会	書籍
28	0-0 概論 28	開発教育 2009 vol. 56 特集 開発教育の教師・指導者とファシリテーター	開発教育協会	書籍
29	0-0 概論 29	開発教育 2010 vol. 57 特集 オルタナティブな経済と開発教育	開発教育協会	書籍
30	0-0 概論 30	開発教育 2011 vol. 58 特集 オルタナティブな教育と開発教育	開発教育協会	書籍
31	0-0 概論 31	パウロ・フレイレ「被抑圧者の教育学」を読む	太郎次郎社エディタス	書籍
32	0-0 概論 32	世界で生きる力—自分を本当にグローバル化する 4 つのステップ	英治出版	書籍
33	0-0 概論 33	シティズンシップと教育—変容する世界と市民性	頸草書房	書籍
34	0-0 概論 34	開発教育 2012 vol.59 特集 開発教育 この 10 年 そして未来へ向けて	開発教育協会	ブックレット
35	0-0 概論 35	開発教育 2013 vol. 60 特集 学びとしてのフェアトレード	開発教育協会	ブックレット
36	0-0 概論 36	開発教育 2014 vol. 61 特集 政治を語る市民社会	開発教育協会	ブックレット
37	0-0 概論 37	地域の問題解決を促進するファシリテーターハンドブック	開発教育協会	ブックレット
38	0-0 概論 38	この社会で戦う君に「知の世界地図」をあげよう	文芸春秋	書籍
39	0-0 概論 39	グローバル時代の国際理解教育—実践と理論をつなぐ	明石書店	書籍
40	0-0 概論 40	100 歳のジャーナリストからきみへ (人類)	汐文社	書籍
41	0-0 概論 41	100 歳のジャーナリストからきみへ (育つ)	汐文社	書籍
42	0-0 概論 42	100 歳のジャーナリストからきみへ (生きる)	汐文社	書籍
43	0-0 概論 43	100 歳のジャーナリストからきみへ (平和)	汐文社	書籍
44	0-0 概論 44	100 歳のジャーナリストからきみへ (学ぶ)	汐文社	書籍
45	0-0 概論 45	SDGs と開発教育 持続可能な開発目標のための学び	学文社	書籍
46	0-0 概論 46	開発教育 2015 vol. 62 特集 「平和」に向き合う開発教育	開発教育協会	ブックレット
47	0-0 概論 47	開発教育 2016 vol. 63 特集 女性をとりまく問題と開発教育	開発教育協会	ブックレット
48	0-0 概論 48	増補学び舎 中学歴史教科書 とともに学ぶ人間の歴史	学び舎	書籍
49	0-0 概論 49	開発教育 2017 vol. 64 特集 多文化共生社会の未来と開発教育	開発教育協会	ブックレット
50	0-0 概論 50	基本解説 そうだったのか。SDGs	(一社) SDGs 市民社会ネットワーク	書籍
51	0-0 概論 51	グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための 7 つのヒント	明石書店	書籍
52	0-0 概論 52	開発教育 2018 vol. 65 特集 安全・安心に暮らすということ—難民・避難民・先住民族の視点から	開発教育協会	ブックレット
53	0-0 概論 53	国際理解教育 Vol. 22 特集道徳教育と国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
54	0-0 概論 54	国際理解教育 Vol. 23 特集アクティブ・ラーニングと国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
55	0-0 概論 55	国際理解教育 Vol. 24 特集「移動する子どもたち」と国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
56	0-0 概論 56	SDGs カリキュラムの創造 :ESD から広がる持続可能な未来	学文社	書籍
57	0-0 概論 57	開発教育 2019 vol. 66 特集 教育の画一性を問う	開発教育協会	ブックレット
58	0-0 概論 58	開発教育 2020 vol. 67 特集 気候危機と私たち	開発教育協会	ブックレット
59	0-0 概論 59	開発教育 2021 vol. 68 特集 沖縄における開発教育	開発教育協会	ブックレット
60	0-0 概論 60	わくわく開発教育 開発教育ブックレットシリーズ No.2	開発教育協議会	ブックレット
61	0-0 概論 61	国際理解教育を問い直す—現代的課題への 15 のアプローチ—	明石書店	書籍
62	0-0 概論 62	SDGs 時代の学びづくり 地域から世界とつながる開発教育	明石書店	書籍
63	0-0 概論 63	開発教育 2022 vol. 69 特集 開発教育 この 10 年、そして次の 10 年へ向けて	開発教育協会	ブックレット
64	0-0 概論 64	開発教育 2023 vol. 70 特集 国際協力を通じた学び	開発教育協会	ブックレット
65	0-0 概論 65	開発教育 2024 vol. 71 特集 シティズンシップを培う教育を考える	開発教育協会	ブックレット
66	1-0 実践事例 2	いきいき開発教育 総合学習に向けてたカリキュラムと教材	開発教育協議会	ブックレット
67	1-0 実践事例 3	つながれ開発教育 学校と地域のパートナーシップ事例集	開発教育協議会	ブックレット
68	1-0 実践事例 4	チャレンジ総合的学習 1 中学校「国際理解」ファックス教材集	明治図書	書籍
69	1-0 実践事例 5	「いのち」を考える授業プラン 48	小学館	書籍
70	1-0 実践事例 6	人間関係を豊かにする授業実践プラン 50	小学館	書籍
71	1-0 実践事例 7	みんなとの人間関係を豊かにする教材 55	小学館	書籍
72	1-0 実践事例 8	いっしょに学ぼう Learning Together	国際理解教育センター	ブックレット
73	1-0 実践事例 9	TOOLS 8 つの参加型<基本ツール>を使いこなす	国際理解教育センター	ブックレット
74	1-0 実践事例 10	STEP5 参加型ですすめる 5 つのステップ	国際理解教育センター	ブックレット
75	1-0 実践事例 11	参加型で伝える 12 のもの見方・考え方	国際理解教育センター	ブックレット
76	1-0 実践事例 12	対立は悪くない ～学校・地域の問題解決に活かす～	国際理解教育センター	ブックレット
77	1-0 実践事例 13	Let's Cooperate 穏やかにめごとを解決するための学びかた・教えかたハンドブック	国際理解教育センター	ブックレット
78	1-0 実践事例 14	ハンドブック 楽しく学び合うワークショップ	国際理解教育情報センター	ブックレット

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
79	1-0 実践事例 15	みんなでつなごう！ 教室と世界 「総合的な学習の時間（国際理解）」に役立つ学習プラン	(財) 福島県国際交流協会	ブックレット
80	1-0 実践事例 16	国際理解教育ハンドブック 地域に暮らす外国人と一緒に学ぼう！	名古屋国際センター	ブックレット
81	1-0 実践事例 17	参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック	開発教育協会	ブックレット
82	1-0 実践事例 18	開発教育・国際理解教育ハンドブック 小中学校教育員用副読本	国際協力推進協会	ブックレット
83	1-0 実践事例 19	教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻	JICA 中部国際センター	ブックレット
84	1-0 実践事例 20	対立から学ぼう 中等教育におけるカリキュラムと教え方	国際理解教育センター	ブックレット
85	1-0 実践事例 21	ERIC レッスンバンク	国際理解教育センター	ペーパー
86	1-0 実践事例 22	レッスンバンク 『ワールドスタディーズ』追加・発展教材集	国際理解教育センター	
87	1-0 実践事例 23	レッスンバンク 『人権教育ファシリテーターハンドブック』追加・発展教材集	国際理解教育センター	
88	1-0 実践事例 24	活動（アクティビティ）で進める国際理解教育教材 全12セット 2005年改訂版	地球の友と歩む会/LIFE	ワークキット
89	1-0 実践事例 25	グローバル・クラスルーム	明石書店	書籍
90	1-0 実践事例 26	身近なことから世界と私を考える授業	明石書店	書籍
91	1-0 実践事例 27	市民学習実践ハンドブック	開発教育協会	書籍
92	1-0 実践事例 28	国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム	松山ESD促進実行委員会	書籍
93	1-0 実践事例 29	食からみえる「現代」の授業	太郎次郎エディタス	書籍
94	1-0 実践事例 30	はじまりをたどる「歴史」の授業	太郎次郎エディタス	書籍
95	1-0 実践事例 31	若者のためのESD 「私」から広がる世界	ESDRC	書籍
96	1-0 実践事例 32	身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ オキナワ・多みんぞくニホン・核と温暖化	明石書店	書籍
97	1-0 実践事例 33	世界と私と未来をつなぐ授業づくりガイド 開発教育・ESDを教室へ	開発教育協会	書籍
98	1-0 実践事例 34	開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる [改訂版]	開発教育協会	書籍
99	1-0 実践事例 35	社会参画の授業づくり・持続可能な社会に向けて	古今書院	書籍
100	1-0 実践事例 36	ファシリテーショングラフィック入門	明治図書出版	書籍
101	1-0 実践事例 37	グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング	三省堂	書籍
102	1-0 実践事例 38	「共に生きる」をデザインする グローバル教育教材と活用ハンドブック	メディア総合研究所	書籍
103	1-0 実践事例 39	ESD・開発教育 実践者のための ふりかえり・自己評価ハンドブック	開発教育協会	ブックレット
104	1-0 実践事例 40	マンガアジア～アジアのマンガから世界を見よう～	名古屋国際センター・国際交流基金	ブックレット
105	1-0 実践事例 41	先生とNGOが手をつなぐ！地域でつくる国際理解教育	福島県国際交流協会	ブックレット
106	1-0 実践事例 42	世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 活用マニュアル	愛知県国際交流協会	ブックレット
107	1-0 実践事例 43	世界はともだち2	岩手県国際交流協会	ブックレット
108	1-0 実践事例 44	たった一つを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」	新評論	書籍
109	1-0 実践事例 45	生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践	メディア総合研究所	書籍
110	1-0 実践事例 46	「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践されるICEモデル(主体的学びシリーズ-主体的学び研究所)	東信堂	書籍
111	1-0 実践事例 47	教育ファシリテーターになろう！グローバルな学びをめざす参加型授業	弘文堂	書籍
112	1-0 実践事例 48	社会科 アクティブ・ラーニングへの挑戦 社会参画をめざす参加型学習	明石書店	書籍
113	1-0 実践事例 49	学び合う場のつくり方——本当の学びへのファシリテーション	岩波書店	書籍
114	1-0 実践事例 50	リラックスと集中を一瞬でつくる アイスブレイク ベスト50	ほんの森出版	書籍
115	1-0 実践事例 51	開発教育基本アクティビティ集 1-世界とのつながり	開発教育協会	書籍
116	1-0 実践事例 52	Social Action Handbook (ソーシャル・アクション ハンドブック) テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア	開発教育協会	書籍
117	1-0 実践事例 53	豊かさの開発	開発教育協会	冊子
118	1-0 実践事例 54	アクティブラーニングに使える！ファシリテーターのための参加型アクティビティ集「コミュニケーション編」	NIED・国際理解教育センター	書籍
119	1-0 実践事例 55	多文化社会で多様性を考えるワークブック	研究社	書籍
120	1-0 実践事例 56	生きる力を育むグローバル教育の実践—生徒の心に響く主体的・対話的で深い学び	明石書店	書籍
121	1-0 実践事例 57	多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック	明石書店	書籍
122	1-0 実践事例 58	身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ 「自分ごと」として学ぶ17ゴール	明石書店	書籍
123	1-1 実践事例 1	アクティビティ事典-2002年度版-	国際理解教育センター	CD
124	1-1 実践事例 2	ゼロから始める主権者教育 18歳の選挙権	PARC	DVD
125	2-0 南北問題 1	フード・ファースト・カリキュラム 食べものを通じて世界を見つめよう	国際理解教育センター	ブックレット
126	2-0 南北問題 2	テーマワーク グローバルな視野を活動の中で育てる	国際理解教育センター	ブックレット
127	2-0 南北問題 3	食べものから世界が見える	地球市民アカデミア	ワークキット
128	2-0 南北問題 4	マジカルバナナ	地球の木	ワークキット
129	2-0 南北問題 5	改訂版 NEW マジカルバナナ	地球の木	ワークキット
130	2-0 南北問題 6	「援助」する前に考えよう 参加型開発とPLAがわかる本	開発教育協会	ブックレット
131	2-0 南北問題 7①②	いい貿易って何だろう いっぱいのコーヒーから考える世界の貿易 開発教育教材シリーズ②	開発教育協議会	ブックレット
132	2-0 南北問題 8	たずねてみよう！ カレーの世界 開発教育教材シリーズ③	開発教育協議会	ブックレット
133	2-0 南北問題 9	改訂版 たずねてみよう！ カレーの世界 開発教育教材シリーズ③	開発教育協会	ブックレット
134	2-0 南北問題 10①②	新・貿易ゲーム 開発教育教材シリーズ④	開発教育協会	ブックレット
135	2-0 南北問題 11	新・貿易ゲーム [改訂版]	開発教育協会	ブックレット
136	2-0 南北問題 12	貧困と開発 豊かさへのエンパワーメント	開発教育協会	ブックレット
137	2-0 南北問題 13	コーヒーカップの向こう側	開発教育協会	ブックレット
138	2-0 南北問題 14	小学校 ユニセフによる地球学習の手引き	教育出版	書籍
139	2-0 南北問題 15	中学校 ユニセフによる地球学習の手引き	教育出版	書籍
140	2-0 南北問題 16	地球に学ぶ新しい地理授業	古今書院	ブックレット
141	2-0 南北問題 17	スマホから考える 世界・わたし・SDGs	開発教育協会	書籍
142	2-0 南北問題 18	コンビニ弁当 16万キロの旅	太郎次郎社	書籍
143	2-0 南北問題 19	世界から貧しさをなくす30の方法	合同出版	書籍
144	2-0 南北問題 20	世界と地球の困った現実	明石書店	書籍
145	2-0 南北問題 21	歩いてみてきたモノのこし方行く末	京都自由学校	ブックレット
146	2-0 南北問題 22	バナナとエビと私たち 岩波ブックレットNo.551	岩波書店	ブックレット
147	2-0 南北問題 23	フェア・トレード 公正なる貿易を求めて	新評論	書籍
148	2-0 南北問題 24	日本はどこへ行く？	太郎次郎社	書籍
149	2-0 南北問題 25	世界の貧困 1日1ドルで暮らす人びと	青土社	書籍
150	2-0 南北問題 26	発展神話の仮面を剥ぐ グローバル化は世界を豊かにするのか？	古今書院	書籍
151	2-0 南北問題 27	徹底解剖100円ショップ 日常化するグローバリゼーション	コモンズ	書籍
152	2-0 南北問題 28	たみちゃんと南の人びと	明石書店	書籍
153	2-0 南北問題 29	たみちゃんと南の人びと part2	明石書店	書籍
154	2-0 南北問題 30	たみちゃんと南の人びと part3	明石書店	書籍
155	2-0 南北問題 31	世界がもし100人の村だったら (英訳付)	マガジンハウス	書籍
156	2-0 南北問題 32	世界がもし100人の村だったら②	マガジンハウス	書籍

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
157	2-0 南北問題 33	世界がもし 100 人の村だったら③たべもの編	マガジンハウス	書籍
158	2-0 南北問題 34	世界がもし 100 人の村だったら④子ども編	マガジンハウス	書籍
159	2-0 南北問題 35	新・ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら	開発教育協会	ブックレット
160	2-0 南北問題 36	改訂版 100 人村カードセット	開発教育協会	ブックレット
161	2-0 南北問題 37①②	100 人村ワークショップセット		ワークキット
162	2-0 南北問題 38	レヌカの学び	あおもり開発教育研究会	ワークキット
163	2-0 南北問題 39	ケータイの一生 — ケータイを通して知る 私と世界のつながり	開発教育協会	ブックレット
164	2-0 南北問題 40	お弁当屋さんゲーム 一食のグローバリゼーションを考える	開発教育協会	ブックレット
165	2-0 南北問題 41	ケータイの裏側	コモンズ	書籍
166	2-0 南北問題 42	世界の半分が餓えるのはなぜ	合同出版	書籍
167	2-0 南北問題 43	世界がもし 100 人の村だったら 完結編	マガジンハウス	書籍
168	2-0 南北問題 44	NHK 地球データマップ 世界の“今”から“未来”を考える	NHK 出版	書籍
169	2-0 南北問題 45	原木のある森 コーヒーのはじまりの物語	アフリカ理解プロジェクト	書籍
170	2-0 南北問題 46	フードマイレージどこからくる？私たちの食べ物	開発教育協会	書籍
171	2-0 南北問題 47	世界中から人身売買がなくなるのはなぜ？	合同出版	書籍
172	2-0 南北問題 48	ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第3版	開発教育協会	ブックレット
173	2-0 南北問題 49	カップめんから世界が見える	WE21 ジャパン 開発教育部会	ワークキット
174	2-0 南北問題 50	地球の水のものがたり～命の水が遠ざかる国～	WE21 ジャパン 開発教育部会	ワークキット
175	2-0 南北問題 51	戦闘機 1 機で学校 j 何校つくれるか？	合同出版	書籍
176	2-0 南北問題 52	世界から飢餓を終わらせるための 30 の方法	合同出版	書籍
177	2-0 南北問題 53	旅をしながら	いのちのことば社	絵本
178	2-0 南北問題 54	懐かしい未来～ラダックに学ぶこと	なつみら SHOP	書籍
179	2-0 南北問題 55	妹は 3 才 お医者さんがいてくれたなら	合同出版	書籍
180	2-0 南北問題 56	ダイヤモンドはほんとうに美しいのか？	合同出版	書籍
181	2-0 南北問題 57	ぼくは 8 歳、エイズで死んでいくぼくの話聞いて	合同出版	書籍
182	2-0 南北問題 58	紛争、貧困、環境破壊をなくすために 世界の子どもたちが語る 20 のヒント	合同出版	書籍
183	2-0 南北問題 59	マジカルバナナ V3	地球の木	ワークキット
184	2-0 南北問題 60	ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第4版	開発教育協会	ブックレット
185	2-0 南北問題 61	世界の国 1 位と最下位—国際情勢の基礎を知ろう	岩波ジュニア新書	書籍
186	2-0 南北問題 62	世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ	汐文社	絵本
187	2-0 南北問題 63	あなたの T シャツはどこから来たのか？誰も書かなかったグローバリゼーションの真実	東洋経済新報社	書籍
188	2-0 南北問題 64	ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第5版	開発教育協会	ブックレット
189	2-0 南北問題 65	世界がもし 100 人の村だったら お金篇	マガジンハウス	書籍
190	2-0 南北問題 66	990 円のジーンズがつくられるのはなぜ？	合同出版	書籍
191	2-0 南北問題 67	ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 第6版	開発教育協会	ブックレット
192	2-0 南北問題 68	コーヒーカップの向こう側 [2021 改訂版]	開発教育協会	ブックレット
193	2-0 南北問題 69	基本アクティビティ集 5 ー服・ファッション	開発教育協会	ブックレット
194	2-0 南北問題 70	スマホから考える世界・わたし・SDGs [改訂版]	開発教育協会	書籍
195	2-1 南北問題 1	徹底解剖 100 円ショップ 日常化するグローバリゼーション	アジア太平洋資料センター	ビデオ
196	2-1 南北問題 2	あぶない野菜 グローバル化する食卓	アジア太平洋資料センター	ビデオ
197	2-1 南北問題 3	奪われたエビ	アジア太平洋資料センター	ビデオ
198	2-1 南北問題 4	エビの向こうにアジアが見える	アジア太平洋資料センター	ビデオ
199	2-1 南北問題 5	コーヒーの秘密 南北問題が見えてくる！	アジア太平洋資料センター	ビデオ
200	2-1 南北問題 6	種子をまめれ！ アグリビジネスとたたかうインド農民	アジア太平洋資料センター	ビデオ
201	2-1 南北問題 7	バナナ植民地・フィリピン	アジア太平洋資料センター	ビデオ
202	2-1 南北問題 8	ゴミを生かす人びと	アジア太平洋資料センター	ビデオ
203	2-1 南北問題 9	路上の子どもたち ブラジル・ストリートチルドレンの闘い	アジア太平洋資料センター	ビデオ
204	2-1 南北問題 10	地球データマップ	NHK	ビデオ
205	2-1 南北問題 11	つながっている世界 今日からできることってなんだろう？	和歌山県人権啓発センター	CD
206	2-1 南北問題 12	身近なモノを通して考える、世界の貧困・格差・環境 私たちの暮らしと世界のつながり	関西 NGO 協議会	DVD
207	2-1 南北問題 13	あいのり「緑の革命」	日本国際飢餓対策機構	DVD
208	2-1 南北問題 14	ゴンドールのやさしい光 パワーポイント版	日本国際飢餓対策機構	DVD
209	2-1 南北問題 15	バイオ燃料 畑でつくるエネルギー	アジア太平洋資料センター	DVD
210	2-1 南北問題 16	食べるためのマグロ売りのためのマグロ	アジア太平洋資料センター	DVD
211	2-1 南北問題 17	パームオイル	アジア太平洋資料センター	DVD
212	2-1 南北問題 18	懐かしい未来～ラダックに学ぶこと & 地域から始まる未来：グローバル経済を超えて	なつみら SHOP	DVD
213	2-1 南北問題 19	フードインク	アミューズソフトエン	DVD
214	2-1 南北問題 20	おじいさんと草原の小学校	タテインメント	DVD
215	2-1 南北問題 21	もっと！フェアトレード 世界につながる私たちの暮らし	PARC	DVD
216	2-1 南北問題 22	スマホの真実 紛争鉱物と環境破壊とのつながり / ウェイク・アップ・コール	PARC	DVD
217	2-1 南北問題 23	薬は誰のものか エイズ治療薬と大企業の特許権	PARC	DVD
218	2-1 南北問題 24	コンビニの秘密 便利で快適な暮らしの裏で	PARC	DVD
219	2-1 南北問題 25	種子（たね）— みんなのもの？ それとも企業の所有物？	PARC	DVD
220	2-1 南北問題 26	甘いバナナの苦い現実	PARC	DVD
221	2-1 南北問題 27	最後の一滴まで ヨーロッパの隠された水戦争	PARC	DVD
222	3-0 平和 1	世界を変えるお金の使い方	ダイヤモンド社	書籍
223	3-0 平和 2	戦争をやめさせ環境破壊をくいとめる新しい社会の作り方	合同出版	書籍
224	3-0 平和 3	[図説] 世界の紛争地域	PHP 研究所	書籍
225	3-0 平和 4	ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと	求龍堂	書籍
226	3-0 平和 5	母さん、ぼくは生きてます	マガジンハウス	書籍
227	3-0 平和 6	正直な気持ちを話そう イスラエル、パレスチナのリアル・ライフ	たちばな出版	書籍
228	3-0 平和 7	地雷の村で「寺子屋」づくり	PHP 研究所	書籍
229	3-0 平和 8①②	Talk for Peace! もっと話そう！	開発教育協議会	ブックレット
230	3-0 平和 9	アフガニスタンから来たモハメッド君のおはなし	つげ書房新社	書籍
231	3-0 平和 10	ぼくの見た戦争 2003 年イラク	ポプラ社	書籍
232	3-0 平和 11	Peace Archives 平和ミュージアム (DVD 付)	岩波書店	書籍・DVD
233	3-0 平和 12	なんみん 難民理解のためのワークブック 故郷をはなれて	難民事業本部	ブックレット
234	3-0 平和 13	増補改訂版 Talk for Peace もっと話そう！ 平和を築くためにできること	開発教育協会	ブックレット

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
235	3-0 平和 14	アジアのこころ (英訳付)	自由国民社	絵本
236	3-0 平和 15	サニーのおねがい 地雷ではなく花をください (英訳付)	自由国民社	絵本
237	3-0 平和 16	サニー カンボジアへ 続・地雷ではなく花をください (英訳付)	自由国民社	絵本
238	3-0 平和 17	サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ 続々・地雷ではなく花をください (英訳付)	自由国民社	絵本
239	3-0 平和 18	サニー アフガニスタンへ 心をこめて地雷ではなく花をください (英訳付)	自由国民社	絵本
240	3-0 平和 19	難民と地雷 全3巻	草土文化	書籍
241	3-0 平和 20	平和のアクティビティブック	YMCA	ブックレット
242	3-0 平和 21	ポーボキ、平和って、なに色?	エピック	絵本
243	3-0 平和 22	イマジン9 想像してごらん、戦争のない世界を	合同出版	絵本
244	3-0 平和 23	ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと	求龍堂	書籍
245	3-0 平和 24	クラスター爆弾なんてもういらない。世界から兵器をなくすみんなの願い	合同出版	書籍
246	3-0 平和 25	岩波 DVD ブック Peace Archives 東京・ゲルニカ・重慶 空襲から平和を考える	岩波書店	書籍・DVD
247	3-0 平和 26	創造的(クリエイティブ)に対立解決一教方ガイドー	開発教育協会・立教大学	書籍
248	3-0 平和 27	子どもとできる創造的な対立解決一実践ガイドー	開発教育協会	書籍
249	3-0 平和 28	井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法	講談社	書籍
250	3-0 平和 29	「それでも、日本人は「戦争」を選んだ」	朝日出版社	書籍
251	3-0 平和 30	ピースフルな子どもたち 戦争・暴力・いじめを越えて	せせらぎ出版	書籍
252	3-0 平和 31	大量破壊兵器、カラシニコフを世界からなくす方法	合同出版	書籍
253	3-0 平和 32	ぼくらのアフリカに戦争がなくなるのはなぜ?	合同出版	書籍
254	3-0 平和 33	さよなら紛争(14歳の世渡り術)	河出書房新社	書籍
255	3-0 平和 34	ダイヤモンドはほんとうに美しいのか?	合同出版	書籍
256	3-0 平和 35	ビデオ・メッセージでむすぶアジアと日本ーわたしがやってきた戦争のつたえ方(教科書に書かれなかった戦争)	梨の木舎	書籍
257	3-0 平和 36	へいわってどんなこと? 日・中・韓平和絵本	童心社	絵本
258	3-0 平和 37	開発教育 基本アクティビティ集2 難民	開発教育協会	ブックレット
259	3-0 平和 38	アメリカから来た友情人形	新日本出版社	絵本
260	3-1 平和 1	戦争の傷後 Legacies of War	国連広報センター	ビデオ
261	3-1 平和 2	難民女性	UNHCR	ビデオ
262	3-1 平和 3	難民になるって、どういうこと?	UNHCR	ビデオ
263	3-1 平和 4	難民もみんな同じ地球人	UNHCR	ビデオ
264	3-1 平和 5	世界の難民はどこに 2004年 GLOBAL VIEW	UNHCR	ビデオ
265	3-1 平和 6	ほんのちょっと変えてみよう	UNHCR	ビデオ
266	4-0 環境 1	もうひとつの日本地図	野草社	書籍
267	4-0 環境 2	1秒の世界	ダイヤモンド社	書籍
268	4-0 環境 3	地球がもし100cmの球だったら	世界文化社	書籍
269	4-0 環境 4	地球では1秒間にサッカー場1面分の緑が消えている	マガジンハウス	書籍
270	4-0 環境 5	あなたが世界を変える日	学陽書房	書籍
271	4-0 環境 6	地球買いモノ白書	コモンズ	書籍
272	4-0 環境 7	21世紀の子どもたちが地球を救う	ブロンズ新社	書籍
273	4-0 環境 8	ファシリテーター入門	つげ書房新社	書籍
274	4-0 環境 9	私にできることは、なんだろう	ascom	書籍
275	4-0 環境 10	にむの木のある村(ベンガル語訳付)	大阪国際交流センター	絵本
276	4-0 環境 11	森におかえり(英訳付)	自由国民社	絵本
277	4-0 環境 12	森が海をつくる(英訳付)	自由国民社	絵本
278	4-0 環境 13	空気はだれのもの?(英訳付)	自由国民社	絵本
279	4-0 環境 14	ジェイクの海のなかまたち(英訳付)	自由国民社	絵本
280	4-0 環境 15	ホタルのくる町(英訳付)	自由国民社	絵本
281	4-0 環境 16	エレナとダフニ(英訳付)	自由国民社	絵本
282	4-0 環境 17	森の暮らしの記憶(英訳付)	自由国民社	絵本
283	4-0 環境 18	「私たちのピン川」北タイ環境教育カリキュラム	開発教育協会	ブックレット
284	4-0 環境 19	食べものから考える環境教育ガイドブック FOOD	エコ・コミュニケーションセンター	ブックレット
285	4-0 環境 20	コミュニティー・エンパワーメント	エコ・コミュニケーションセンター	ブックレット
286	4-0 環境 21	環境教育推進ハンドブック	国際理解教育センター	ブックレット
287	4-0 環境 22	地球のみかた 地球について学ぶカリキュラム(生徒用)	国際理解教育センター	ブックレット
288	4-0 環境 23	地球のみかた 地球について学ぶカリキュラム	国際理解教育センター	ブックレット
289	4-0 環境 24	未来を学ぼう わたしと地球を結び価値観とビジョン	国際理解教育センター	ブックレット
290	4-0 環境 25①②	パーム油のはなし 「地球にやさしい」ってなんだろう?	開発教育協会	ワークキット
291	4-0 環境 26	みみずのカーロ シェーファー先生の自然の学校	合同出版	書籍
292	4-0 環境 27	図解 地球の真実(別冊宝島 1397)	宝島社	書籍
293	4-0 環境 28	もっと話そう! エネルギーと原発のこと 参加型で学び合うための16の方法	開発教育協会	書籍
294	4-0 環境 29	パーム油の話 「地球にやさしい」ってなんだろう?改訂版	開発教育協会	ワークキット
295	4-0 環境 30	水から広がる学び アクティビティ20	開発教育協会	ワークキット
296	4-0 環境 31	SDGsと環境教育	学文社	書籍
297	4-0 環境 32	気候変動 開発教育アクティビティ集3	開発教育協会	ブックレット
298	4-0 環境 33	プラスチックこみ 開発教育アクティビティ集4	開発教育協会	ブックレット
299	4-0 環境 34	パーム油のはなし1~「地球にやさしい」ってなんだろう?~<2018年改定版>	開発教育協会	ブックレット
300	4-0 環境 35	パーム油のはなし2	開発教育協会	ブックレット
301	4-1 環境 1	森はどこへ行く オーストラリアの原生林が日本の紙になるまで	アジア太平洋資料センター	ビデオ
302	4-1 環境 2	緑の砂漠 植林が環境を破壊する	アジア太平洋資料センター	ビデオ
303	4-1 環境 3	切り売りされるタイ プーケット島の観光開発	アジア太平洋資料センター	ビデオ
304	4-1 環境 4	いつかこの木に見守られて タイ植林体験記	オイスカ	ビデオ
305	4-1 環境 5	緑の革命「あいのり」		ビデオ
306	4-1 環境 6	ペットボトルの水	アジア太平洋資料センター	DVD
307	4-1 環境 7	世界をめぐる電子ゴミ	アジア太平洋資料センター(PARC)	DVD
308	4-1 環境 8	ハードレイン・バンドラの箱から降り注ぐ放射能	アジア太平洋資料センター(PARC)	DVD
309	4-1 環境 9	プラスチックこみ 日本のリサイクル幻想	アジア太平洋資料センター(PARC)	DVD
310	5-0 人権 1	識字BOX	国際識字年推進和泉連絡会	ワークキット・カルタ・ビデオ
311	5-0 人権 2	人権教育ファシリテーター・ハンドブック 参加型「気づきから築きへ」プログラム	国際理解教育センター	ブックレット
312	5-0 人権 3	いっしょに考えて! 人権 人権教育ファシリテーター・ハンドブック 発展編	国際理解教育センター	ブックレット

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
313	5-0 人権 4	いっしょにすめよう！ 人権 人権教育ファシリテーターハンドブック 実践編	国際理解教育センター	ブックレット
314	5-0 人権 5	人権教育のためのコンパス [羅針盤]	明石書店	書籍
315	5-0 人権 6	同和問題・人権問題学習教材 (パート4) こうもりくん	滋賀県解放県民センター	ブックレット
316	5-0 人権 7	国際理解教育と人権	開放出版社	書籍
317	5-0 人権 8	プエノス・ディアス・ニッポン ～外国人が生きる「もうひとつの日本」～	ラティーナ	書籍
318	5-0 人権 9	知っていますか？ 死刑と人権 一問一答	解放出版社	書籍
319	5-0 人権 10	非核と先住民の独立をめざして	現代人文社	ブックレット
320	5-0 人権 11	デカセギ 逆流する日系ブラジル人	草思社	書籍
321	5-0 人権 12	米軍に土地を奪われた沖縄人	新読書社	書籍
322	5-0 人権 13	ええぞ、カルロス	大阪市立総合生涯学習センター	絵本
323	5-0 人権 14	チョコレートから世界が見える人権を基盤にした ESD 教材	ヒューライツ大阪	書籍
324	5-0 人権 15	「人権で世界を変える 30 の方法」(ヒューマンライツ・ナウ編)	合同出版	書籍
325	5-0 人権 16	あなたとわたしの幸せを築く世界人権宣言 世界人権宣言	世界人権宣言大阪連絡会議	ブックレット
326	5-0 人権 17	ヘイトスピーチとたたかう！	岩波書店	書籍
327	5-0 人権 18	人権教育指導資料集 人権教育を進めるために	長野県教育委員会	書籍
328	5-0 人権 19	地球市民の人権教育－15 歳からのレッスンプラン	解放出版社	書籍
329	5-0 人権 20	多様性の学級づくり 人権教育アクティビティ集	解放出版社	書籍
330	5-0 人権 21	外国人はなぜ消防士になれないかー公的な国籍差別の撤廃に向けてー	田畑書店	書籍
331	5-0 人権 22	ちがいでキドキ多文化共生ナビ～在日外国人教育実践プラン集～	大阪府在日外国人教育研究協議会	書籍
332	5-0 人権 23	ダイバーシティ・トレーニング・ブック 多様性研修のてびき	解放出版社	書籍
333	5-0 人権 24	むこう岸には	ぼるぶ出版	絵本
334	5-0 人権 25	島 よくある物語	飛鳥新社	絵本
335	5-0 人権 26	日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション——人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別	明石書店	書籍
336	5-0 人権 27	無意識のバイアス—人はなぜ人種差別をするのか	明石書店	書籍
337	5-0 人権 28	差別はたいてい悪意のない人がする	大月書店	書籍
338	5-0 人権 29	ヘイトをのりこえる教室 とともに生きるためのレッスン	大月書店	書籍
339	5-0 人権 30	これからの社会を生きていくための人権リテラシー 高専発！ 書く・話す・考えるワークブック	大樹出版	書籍
340	5-0 人権 31	ちがいでキドキ多文化共生ナビ2～在日外国人教育実践プラン集～	大阪府在日外国人教育研究協議会	書籍
341	5-0 人権 32	せかいでさいしょにズボンをはいた女の子	光村教育図書	絵本
342	5-1 人権 1	国際人権を知っていますか ～国連と市民のとらきみ～	ヒューライツ大阪	ビデオ
343	5-1 人権 2	自立をめざして ～アジアの女性とこどもたち～	ヒューライツ大阪	ビデオ
344	5-1 人権 3	日本の国際化と人権 ～違いを認めあう地域社会を～	ヒューライツ大阪	ビデオ
345	5-1 人権 4	女たちが語るインド	アジア太平洋資料センター	ビデオ
346	5-1 人権 5	もうひとつの戦争 インドの人口政策と女性たち	アジア太平洋資料センター	ビデオ
347	5-1 人権 6	映画ジャピルカ日本語版 私たちの電気がアボリジニの大地を壊す	アジア太平洋資料センター	ビデオ
348	5-1 人権 7	ミナの笑顔 37 言語収録版 DVD	ACCU	DVD
349	5-1 人権 8	DVD もうひとつのツーリズム「先住民エコツアーの始動」NGO/NPO キャンペーンハンドブック	NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」	DVD
350	6-0 英語教育 1	JAPAN ALMANAC 2005 英和対訳データ年鑑	朝日新聞社	書籍
351	6-0 英語教育 2	公立小学校でやってみよう！ 英語	草木文化	書籍
352	6-0 英語教育 3	総合英語：地球市民として生きる	三修社	ブックレット
353	6-0 英語教育 4	英語で国際理解教育 (CD 付) 小学 1・2 年版	小学館	書籍・CD
354	6-0 英語教育 5	英語で国際理解教育 (CD 付) 小学 3・4 年版	小学館	書籍・CD
355	6-0 英語教育 6	英語で国際理解教育 (CD 付) 小学 5・6 年版	小学館	書籍・CD
356	6-0 英語教育 7	小学校英語の授業プラン つくって調べる地球環境 (CD 付)	小学館	書籍・CD
357	6-0 英語教育 8	小学生の英会話活動 ～ゲームと歌あそび～	小学館	書籍
358	6-0 英語教育 9	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！人間について	金の星社	絵本
359	6-0 英語教育 10	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！平和について	金の星社	絵本
360	6-0 英語教育 11	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！環境について	金の星社	絵本
361	6-0 英語教育 12	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！いろいろな文化	金の星社	絵本
362	6-0 英語教育 13	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！世界の国々	金の星社	絵本
363	6-0 英語教育 14	えほんで楽しむ英語の世界	一声社	書籍
364	6-0 英語教育 15	アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている	径書房	書籍
365	6-0 英語教育 16	CAN YOU FIND ME?	ACCU	絵本
366	6-0 英語教育 17	はじめての英語の歌—歌でおぼえるらくらくイングリッシュ	学研マーケティング	書籍
367	6-0 英語教育 18	ヘンリーおじさんの英語でレッスンができる本—ネイティブが教える、子ども英語教室フレーズ集	アルク	書籍
368	6-0 英語教育 19	小学校 テーマで学ぶ英語活動 BOOK1	三友社出版	書籍
369	6-0 英語教育 20	和の行事えほん Annual Events in Japan Spring & Summer	Ehon House	書籍
370	6-0 英語教育 21	和の行事えほん Annual Events in Japan Autumn & Winter	Ehon House	書籍
371	6-0 英語教育 22①	your world 英語テキスト	サクソコートパブリッシング	書籍
372	6-0 英語教育 22②	your world 英語テキスト 別売指導用 CD	サクソコートパブリッシング	CD-ROM
373	6-0 英語教育 23①	your world 国際理解テキスト	サクソコートパブリッシング	書籍
374	6-0 英語教育 23②	your world 国際理解テキスト 別売指導用 CD	サクソコートパブリッシング	CD-ROM
375	6-0 英語教育 24	チャレンジ！キッズ スピーチ 1 できるよ！はじめてのスピーチ	大月書店	書籍
376	6-0 英語教育 25	チャレンジ！キッズ スピーチ 2 平和をもとめた子どもたち	大月書店	書籍
377	6-0 英語教育 26	チャレンジ！キッズ スピーチ 3 子どもの権利をうったえる	大月書店	書籍
378	7-0 多文化 1	My name is… 世界にひとつだけの名前	角川書店	書籍
379	7-0 多文化 2	日本のなかの世界	新幹社	書籍
380	7-0 多文化 3	多文化共生のジレンマ	明石書店	書籍
381	7-0 多文化 4	多文化共生の学校づくり	明石書店	書籍
382	7-0 多文化 5	多文化共生のまちづくり	明石書店	書籍
383	7-0 多文化 6	多文化教育 多様性のための教育学	明石書店	書籍
384	7-0 多文化 7	幼児のための多文化理解教育	明石書店	書籍
385	7-0 多文化 8	多文化教育を拓く	明石書店	書籍
386	7-0 多文化 9	多文化・人権教育学校をつくる	明石書店	書籍
387	7-0 多文化 10	雨森芳洲と朝鮮通信使かるた	雨森芳洲庵	かるた
388	7-0 多文化 11	歴史教科書 在日コリアンの歴史	明石書店	書籍
389	7-0 多文化 12	滋賀のなかの朝鮮	明石書店	書籍
390	7-0 多文化 13	外国人のためのお弁当 (3ヶ国語：日・中・英語)	関西生命線	書籍

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
391	7-0 多文化 14	多文化共生保育 Q&A	大阪保育子育て人権情報研究センター	ブックレット
392	7-0 多文化 15	アフリカ 理解ハンドブック -アフリカと私たち	アフリカ日本協議会	ブックレット
393	7-0 多文化 16	くらべてみよう! 日本と世界の 食べ物と文化	講談社	書籍
394	7-0 多文化 17	パパラギ	立風書房	絵本
395	7-0 多文化 18	世界のあいさつ	福音館書店	絵本
396	7-0 多文化 19	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ1 アフリカドレス	明石書店	書籍
397	7-0 多文化 20	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ2 アフリカンキッチン	明石書店	書籍
398	7-0 多文化 21	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ3 アフリカンリビング	明石書店	書籍
399	7-0 多文化 22	たくさんのふしぎ傑作集 手で食べる?	福音館書店	絵本
400	7-0 多文化 23	たくさんのふしぎ傑作集 いっぱんの鉛筆のむこうに	福音館書店	絵本
401	7-0 多文化 24	世界のじゃんけん	今人舎	書籍
402	7-0 多文化 25	世界の外あそび	今人舎	書籍
403	7-0 多文化 26	韓国・朝鮮と出会おう	国土社	書籍
404	7-0 多文化 27	中国と出会おう	国土社	書籍
405	7-0 多文化 28	フィリピンと出会おう	国土社	書籍
406	7-0 多文化 29	ブラジルと出会おう	国土社	書籍
407	7-0 多文化 30	多文化子どもの歌集 (CD 付)	明石書店	ブックレット・CD
408	7-0 多文化 31	朝鮮をどう教えるか	解放出版社	書籍
409	7-0 多文化 32	オーストラリア発見 (対訳本・ビデオ 2 本付)	豪日交流基金	ブックレット・ビデオ
410	7-0 多文化 33	いろいろな国・いろいろなことば 全 6 巻 (ビデオ付)	ポプラ社	絵本・ビデオ
411	7-0 多文化 34	ひょうたん島問題 ~多文化共生をめざして~ (CD 付)	デジタルマジック	ワークキット
412	7-0 多文化 35	シミュレーション教材「ひょうたん島問題」	明石書店	書籍
413	7-0 多文化 36①②	ブラジルボックス	滋賀県国際協会	ワークキット
414	7-0 多文化 37①②	かるた「わたしん家の食事から」	滋賀県国際協会	ワークキット
415	7-0 多文化 38	多文化共生キーワード事典	明石書店	書籍
416	7-0 多文化 39	ニューカマーの子どもと学校教育	勁草書房	書籍
417	7-0 多文化 40	外国人の子どもと日本の教育	東京大学出版会	書籍
418	7-0 多文化 41	プエノス・ディアス、ニッポンー外国人が生きる「もうひとつのニッポン」	ラティーナ	書籍
419	7-0 多文化 42	多文化保育論	学文社	書籍
420	7-0 多文化 43	乳幼児とその家族への早期支援	北大路書房	書籍
421	7-0 多文化 44	新版 シミュレーション教材「ひょうたん島問題」	明石書店	書籍
422	7-0 多文化 45	多文化共生社会と外国人コミュニティの力	現代人文社	書籍
423	7-0 多文化 46	顔の見えない定住化	名古屋大学出版会	書籍
424	7-0 多文化 47	「多文化パワー」社会ー多文化共生を超えて	明石書店	書籍
425	7-0 多文化 48	まんが クラスメイトは外国人 多文化共生 20 の物語	明石書店	書籍
426	7-0 多文化 49	世界あちこちゆかいな家めぐり	福音館書店	書籍
427	7-0 多文化 50	トイレのおかげ	福音館書店	書籍
428	7-0 多文化 51	絵本で育てる情報分析力	一声社	書籍
429	7-0 多文化 52	多文化共生社会の保育者ーぶつかってもだいじょうぶ	北大路書房	書籍
430	7-0 多文化 53	異文化コミュニケーションー新・国際人への条件	有斐閣選書	書籍
431	7-0 多文化 54	絵本 世界の食事①<フランスのごはん>	農文協	書籍
432	7-0 多文化 55	絵本 世界の食事②<インドのごはん>	農文協	書籍
433	7-0 多文化 56	絵本 世界の食事③<韓国のごはん>	農文協	書籍
434	7-0 多文化 57	絵本 世界の食事④<イタリアのごはん>	農文協	書籍
435	7-0 多文化 58	絵本 世界の食事⑤<メキシコのごはん>	農文協	書籍
436	7-0 多文化 59	絵本 世界の食事⑥<ドイツのごはん>	農文協	書籍
437	7-0 多文化 60	絵本 世界の食事⑦<ブラジルのごはん>	農文協	書籍
438	7-0 多文化 61	絵本 世界の食事⑧<中国のごはん>	農文協	書籍
439	7-0 多文化 62	絵本 世界の食事⑨<タイのごはん>	農文協	書籍
440	7-0 多文化 63	絵本 世界の食事⑩<トルコのごはん>	農文協	書籍
441	7-0 多文化 64	絵本 世界の食事⑪<モンゴルのごはん>	農文協	書籍
442	7-0 多文化 65	絵本 世界の食事⑫<フィンランドのごはん>	農文協	書籍
443	7-0 多文化 66	絵本 世界の食事⑬<ベトナムのごはん>	農文協	書籍
444	7-0 多文化 67	絵本 世界の食事⑭<スペインのごはん>	農文協	書籍
445	7-0 多文化 68	絵本 世界の食事⑮<ペルーのごはん>	農文協	書籍
446	7-0 多文化 69	The World of Street Food Easy quick meals to cook at home	ニュー・インターナショナル・ジャパン	書籍
447	7-0 多文化 70	原木のある森 コーヒーのはじまりの物語	アフリカ理解プロジェクト	書籍
448	7-0 多文化 71	非識字体験ゲーム 「ここは、何色?」「はじめてのお見舞い」	滋賀県国際協会	ワークキット
449	7-0 多文化 72	「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起った? (震災編)	滋賀県国際協会	ワークキット
450	7-0 多文化 73	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 1 巻 生きる知恵	学研教育出版	書籍
451	7-0 多文化 74	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 2 巻 人情	学研教育出版	書籍
452	7-0 多文化 75	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 3 巻 損得と運	学研教育出版	書籍
453	7-0 多文化 76	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 4 巻 才能と経験	学研教育出版	書籍
454	7-0 多文化 77	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 5 巻 世の中	学研教育出版	書籍
455	7-0 多文化 78	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜 第 6 巻 ことわざのいろいろ	学研教育出版	書籍
456	7-0 多文化 79	私も「移動する子ども」だった 異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー	くろしお出版	書籍
457	7-0 多文化 80	在日コリアン女性 20 人の軌跡	明石書店	書籍
458	7-0 多文化 81	ぐずぐず言わせて! わたしらの居場所 「わたしのこと」シリーズ vol.2	(財) 神奈川国際交流協会	書籍
459	7-0 多文化 82	先住民と ESD	立教大学 ESD 研究センター	書籍
460	7-0 多文化 83	続・先住民と ESD	立教大学 ESD 研究センター	書籍
461	7-0 多文化 84	教材「CHAMPURREANDO ~世界のウチナンチュ発! 多文化共生」	NPO 法人沖繩 NGO センター	教材セット
462	7-0 多文化 85	世界のウチナンチュかるたチャンプレアンド 日本語 + 英語版	NPO 法人沖繩 NGO センター	カルタ
463	7-0 多文化 86	3・11 後の多文化家族	明石書店	書籍
464	7-0 多文化 87	外国にルーツを持つ子どもたち 思い・制度・展望	(財) アジア・太平洋人権情報センター	書籍
465	7-0 多文化 88	いつだって、そばにいるよ。	NTT 出版	書籍
466	7-0 多文化 89	未来をつくる教育 ESDー持続可能な多文化社会をめざして	明石書店	書籍
467	7-0 多文化 90	異文化間教育ー文化間移動と子どもの教育	明石書店	書籍
468	7-0 多文化 91	言葉図鑑 なまえのことばとくらしのことば 1 にほんご・えいご・ポルトガルご・スペインご	偕成社	絵本

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
469	7-0 多文化 92	言葉図鑑 なまえのことばとくらしのことば2 にほんご・えいご・ポルトガルご・スペインご	偕成社	絵本
470	7-0 多文化 93	フィリピンかあちゃん奮闘記 in ジャパン	文化社	書籍
471	7-0 多文化 94	異文化理解入門	平凡社	書籍
472	7-0 多文化 95	外国人から見たニッポン	ディスカヴァー・トゥエンティワン	書籍
473	7-0 多文化 96	Playtime	Oxfam	英語絵本
474	7-0 多文化 97	Bicycles	Oxfam	英語絵本
475	7-0 多文化 98	Home	Oxfam	英語絵本
476	7-0 多文化 99	Our Animals	Oxfam	英語絵本
477	7-0 多文化 100	At School	Oxfam	英語絵本
478	7-0 多文化 101	ぼく、いいもの いっぱい～日本語で学ぶ子どもたち～	子どもの未来社	絵本
479	7-0 多文化 102	わたしが外人だったころ	福音館書店	絵本
480	7-0 多文化 103	ビビのアフリカ旅行	ポプラ社	書籍
481	7-0 多文化 104	まんがで学ぶ 世界の宗教	あさ出版	書籍
482	7-0 多文化 105	絵本で学ぶイスラームの暮らし	あすなる書房	絵本
483	7-0 多文化 106	アラブから こんにちは 灼熱、イスラーム、魔人、子育て～未知なるアラブの生活事情	国書刊行会	書籍
484	7-0 多文化 107	アイ アム ジャパニーズ これがハーフ芸人の生きる道	ワニブックス	書籍
485	7-0 多文化 108	ハーフが美人なんて妄想ですから!! 困った「純ジャパ」との闘いの日々	中央公論新社	書籍
486	7-0 多文化 109①②	わたしん家の食事から カードゲーム版	(公財) 滋賀県国際協会	ワークキット
487	7-0 多文化 110	境界に生きる 暮らしの中の多文化共生	解放出版社	書籍
488	7-0 多文化 111	同級生は外国人!?①「どうしてルールが守れないの?」	汐文社	書籍
489	7-0 多文化 112	同級生は外国人!?②「どうして頭にスカーフを巻いているの?」	汐文社	書籍
490	7-0 多文化 113	同級生は外国人!?③「日本がきらいなのかな?」	汐文社	書籍
491	7-0 多文化 114	いのり一聖なる場所	光村教育図書	絵本
492	7-0 多文化 115	世界のお弁当～心をつなぐレシピ 55	河出書房新社	写真集
493	7-0 多文化 116	おんなし、おんなじ!でも、ちょっとちがう!	光村教育図書	絵本
494	7-0 多文化 117	アフリカ少年が日本で育った結果	毎日新聞出版	書籍
495	7-0 多文化 118	まんが クラスメイトは外国人 課題編 私たちが向き合う多文化共生の現実	明石書店	書籍
496	7-0 多文化 119	ふたりのサンドウィッチ	TO ブックス	絵本
497	7-0 多文化 120	スポーツでひろげる国際理解3 国境をこえるスポーツ	文溪堂	書籍
498	7-0 多文化 121	国籍の? (ハテナ) がわかる本	太郎次郎社エディタス	書籍
499	7-0 多文化 122	ランカ にほんにやってきた おんなのこ	偕成社	絵本
500	7-0 多文化 123	移民と日本社会～データで読み解く実態と将来像	中公新書	書籍
501	7-0 多文化 124	「移民時代」の多文化共生論～想像力・創造力を育む 14 のレッスン	明石書店	書籍
502	7-0 多文化 125	故郷の味は海をこえて 「難民」として日本に生きる	ポプラ社	書籍
503	7-0 多文化 126	Mio The Beautiful		絵本
504	7-0 多文化 127	みんなとちがうきみだけど	汐文社	絵本
505	7-0 多文化 128	〈超・多国籍学校〉は今日にもぎやか! 多文化共生って何だろう	岩波書店	書籍
506	7-1 多文化 1	アニニョハシムニカ 素顔の韓国 サワデリカー ほほ笑みの国・タイ	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
507	7-1 多文化 2	スラマシアン インドネシアの子どもたち	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
508	7-1 多文化 3	マブハイ 陽気なフィリピンの子どもたち	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
509	7-1 多文化 4	となりに生きる外国人	アジア太平洋資料センター	ビデオ
510	7-1 多文化 5	国際理解 はじめの一步 インドネシア・バリ島編	インドネシア教育振興会	CD
511	7-1 多文化 6	Ciranda,Cirandinha	多文化共生センター	CD
512	7-1 多文化 7	孤独なツバメたち～デカセキの子供に生まれて～	TO ブックス	DVD
513	7-1 多文化 8	ナニジン? - トモダチ作戦 -	(公財)とよなか国際交流協会	DVD
514	7-1 多文化 9	こんばんは 墨田区立文花中学校夜間学級	「こんばんは」全国上映	
515	8-0 写真 1	百年の愚行	紀伊国屋書店	書籍
516	8-0 写真 2	「ゴミと宝石」 フィリピン、スモークマウンテンの子供たち	第三書館	書籍
517	8-0 写真 3	イラクに生きる I love Iraq	国土社	書籍
518	8-0 写真 4	INDIA Fairs&Festivals	学研	書籍
519	8-0 写真 5	Who? 報道されないアフガンの素顔	平和出版	書籍
520	8-0 写真 6	地球の仲間たち フォトランゲージ アメリカ合衆国	開発教育を考える会	ワークキット
521	8-0 写真 7	地球の仲間たち フォトランゲージ エクアドル	開発教育を考える会	ワークキット
522	8-0 写真 8	地球の仲間たち フォトランゲージ エチオピア	開発教育を考える会	ワークキット
523	8-0 写真 9	地球の仲間たち フォトランゲージ ガーナ	開発教育を考える会	ワークキット
524	8-0 写真 10	地球の仲間たち フォトランゲージ コートジボアール	開発教育を考える会	ワークキット
525	8-0 写真 11	地球の仲間たち フォトランゲージ コスタリカ	開発教育を考える会	ワークキット
526	8-0 写真 12	地球の仲間たち フォトランゲージ コロンビア	開発教育を考える会	ワークキット
527	8-0 写真 13	地球の仲間たち フォトランゲージ スリランカ	開発教育を考える会	ワークキット
528	8-0 写真 14	地球の仲間たち フォトランゲージ 中国	開発教育を考える会	ワークキット
529	8-0 写真 15	地球の仲間たち フォトランゲージ ニカラグア	開発教育を考える会	ワークキット
530	8-0 写真 16	地球の仲間たち フォトランゲージ ニジェール	開発教育を考える会	ワークキット
531	8-0 写真 17	地球の仲間たち フォトランゲージ ネパール (ニッキ)	開発教育を考える会	ワークキット
532	8-0 写真 18	地球の仲間たち フォトランゲージ ネパール (ブラサンタ)	開発教育を考える会	ワークキット
533	8-0 写真 19	地球の仲間たち フォトランゲージ ハンガリー	開発教育を考える会	ワークキット
534	8-0 写真 20	地球の仲間たち フォトランゲージ パキスタン	開発教育を考える会	ワークキット
535	8-0 写真 21	地球の仲間たち フォトランゲージ パナマ	開発教育を考える会	ワークキット
536	8-0 写真 22	地球の仲間たち フォトランゲージ パプアニューギニア	開発教育を考える会	ワークキット
537	8-0 写真 23	地球の仲間たち フォトランゲージ パラグアイ	開発教育を考える会	ワークキット
538	8-0 写真 24	地球の仲間たち フォトランゲージ ブルガリア	開発教育を考える会	ワークキット
539	8-0 写真 25	地球の仲間たち フォトランゲージ ホンジュラス	開発教育を考える会	ワークキット
540	8-0 写真 26	地球の仲間たち フォトランゲージ ボツワナ	開発教育を考える会	ワークキット
541	8-0 写真 27	地球の仲間たち フォトランゲージ ボリビア	開発教育を考える会	ワークキット
542	8-0 写真 28	地球の仲間たち フォトランゲージ モルディブ	開発教育を考える会	ワークキット
543	8-0 写真 29	地球の仲間たち フォトランゲージ ラオス	開発教育を考える会	ワークキット
544	8-0 写真 30	地球の仲間たち フォトランゲージ ヨルダン	開発教育を考える会	ワークキット
545	8-0 写真 31	地球家族	TOTO 出版	写真書籍
546	8-0 写真 32	続地球家族	TOTO 出版	写真書籍

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
547	8-0 写真 33	地球の食卓	TOTO 出版	写真書籍
548	8-0 写真 34	祝祭 世界の祭り・民族・文化	クレオ	写真書籍
549	8-0 写真 35	地球人記	福音館書店	写真書籍
550	8-0 写真 36	地球人生活記	福音館書店	写真書籍
551	8-0 写真 37	地球家族フォトランゲージ版	国際理解教育センター	写真
552	8-0 写真 38①②	地球家族フォトランゲージ版 (A4 版)	国際理解教育センター	写真
553	8-0 写真 39	地球家族フォトランゲージ版 (A3 版)	国際理解教育センター	写真
554	8-0 写真 40	地球の食卓フォトランゲージ (B4 版)	国際理解教育センター	写真
555	8-0 写真 41	MONO 変身図鑑	JICA	写真、CD
556	8-0 写真 42	写真集「ギフト」 GIFT to children of Angkor	マガジンハウス	書籍
557	8-0 写真 43	地球の仲間たち CD-Rom 版	開発教育を考える会	CD
558	8-0 写真 44①②	写真で学ぼう! 地球の食卓 学習プラン10	開発教育協会	写真、解説書
559	8-0 写真 45	地球のごはん 世界 30 カ国 80 人のいただきます	TOTO 出版	写真書籍
560	8-0 写真 46	トランクの中の日本 米従軍カメラマンの非公公式記録	小学館	写真書籍
561	8-0 写真 47	食べもの記—EATING ON EARTH	福音館書店	写真書籍
562	9-0 メディア 1	ニュースに耳を傾ける ブローバル・エクスプレス第1号	開発教育協会	ブックレット
563	9-0 メディア 2	攻撃を超えて ブローバル・エクスプレス第2号	開発教育協会	ブックレット
564	9-0 メディア 3	難民 ブローバル・エクスプレス第3号	開発教育協会	ブックレット
565	9-0 メディア 4	イラク グローバル・エクスプレス第4号	開発教育協会	ブックレット
566	9-0 メディア 5	戦争報道 ブローバル・エクスプレス第5号	開発教育協会	ブックレット
567	9-0 メディア 6	メディア・リテラシー【入門編】	リベルタ出版	書籍
568	9-0 メディア 7	NIE ワークシート 100 例	晩成書房	書籍
569	9-0 メディア 8	時事問題を教室へグローバルエクスプレス(無料ダウンロード版)	開発教育協会	
570	10-0 子ども 1	アジアの子ども	明石書店	書籍
571	10-0 子ども 2	シエラレオネ 5歳まで生きられない子どもたち	アートン	書籍
572	10-0 子ども 3	こどもの権利を買わないで-ブンとミーチャのものがたり(英訳付)	自由国民社	絵本
573	10-0 子ども 4	「日本の子どもは何をして働いているの?」	国際子ども権利センター	絵本
574	10-0 子ども 5	日本の子どものたち NGOの現場から	明石書店	書籍
575	10-0 子ども 6	ロサーリオの死 -少女の残したもの-	日本ユニセフ協会	書籍
576	10-0 子ども 7	子ども地球白書 2002-2003	朔北社	書籍
577	10-0 子ども 8	児童の権利に関する条約	外務省	ブックレット
578	10-0 子ども 9	世界の子どもたちに今おきていること	日本ユニセフ協会	書籍
579	10-0 子ども 10	多発する少女買春 子どもを買う男たち	新評論	書籍
580	10-0 子ども 11	子どもたちのアフリカ	岩波書店	書籍
581	10-0 子ども 12	「ストリートチルドレン・100人の子どもたち」教材パッケージ(ビデオ2本付)	シャプラニール	ワークキット・ビデオ
582	10-0 子ども 13	わたし8歳、カカオ畑で働きつけて	ACE	書籍
583	10-0 子ども 14	ワークショップ『大切なものは何ですか?』〜子どもたちがうつつしたカンボジアの今	エデュ・ソシアル・サポート・センター [EdU]	ワークキット
584	10-0 子ども 15	スクールセクシャルハラスメント	国際子ども権利センター	書籍
585	10-0 子ども 16	子どもの権利条約カードとユニセフポスターセット		ワークキット
586	10-0 子ども 17	おいしいチョコレートの真実〜働く子どもたちとわたしたちとのつながり〜	ACE	ワークキット
587	10-0 子ども 18	もたないばあさんと考えよう世界のこと	講談社	書籍
588	10-0 子ども 19	ぼくら地球市民1 戦争なんてもうやめて	大月書店	書籍
589	10-0 子ども 20	ぼくら地球市民2 キッズパワーが世界を変える	大月書店	書籍
590	10-0 子ども 21	ぼくら地球市民3 わたしと地球の約束	大月書店	書籍
591	10-0 子ども 22	どこにいるかわかる?	こぐま社	絵本
592	10-0 子ども 23	世界の子どもたちは今一子ども兵士	リブリオ出版	書籍
593	10-0 子ども 24	世界の子どもたちは今一児童労働	リブリオ出版	書籍
594	10-0 子ども 25	世界の子どもたちは今一子どもの人身売買	リブリオ出版	書籍
595	10-0 子ども 26	「ぼくは12歳、路上で暮らしはじめたわけ。—私には何ができますか? その悲しみがなくなる日を夢見て」	合同出版	書籍
596	10-0 子ども 27	子どもの参加を促すガイド	jne	書籍
597	10-0 子ども 28	貧しい国で女の子として生きるといこと 開発途上国からの5つの物語	遊タイム出版	書籍
598	10-0 子ども 29	「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2011 女の子と女性の教育	「世界中の子どもに教育を」キャンペーン事務局	ワークキット
599	10-0 子ども 30	おかえり、またあえたね ストリートチルドレン・トトのものがたり	東京書籍	書籍
600	10-0 子ども 31	ダイヤモンドより平和がほしいー子ども兵士・ムリアの告白	汐文社	書籍
601	10-0 子ども 32	このTシャツはどこからくるの? -ファッションの裏側になる児童労働の真実-	(特活) ACE	ワークキット
602	10-0 子ども 33	わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。	合同出版	書籍
603	10-0 子ども 34	ぼくがラーメン たべるととき	教育画劇	絵本
604	10-0 子ども 35	写真でのぞいてみよう-世界で働く子どもの生活	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	ワークキット
605	10-0 子ども 36	児童労働シミュレーションカードゲーム	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	ワークキット
606	10-0 子ども 37	わたし8歳、職業、家事使用人	合同出版	書籍
607	10-0 子ども 38	すごいね! みんなの通学路	西村書店	写真絵本
608	10-0 子ども 39	私はどこで生きていけばいいの?	西村書店	写真絵本
609	10-0 子ども 40	世界を変えるために50の小さな革命	太郎次郎エディタス	書籍
610	10-0 子ども 41	世界中の子どもの権利をまもる30の方法	合同出版	書籍
611	10-0 子ども 42	こどもSDGs なぜSDGsが必要なのかわかる本	カンゼン	書籍
612	10-0 子ども 43	世界がぐっと近くなる SDGsとボくらをつなぐ本	学研プラス	書籍
613	10-1 子ども 1	I am child! 働かされる子供たち	ILO	ビデオ
614	10-1 子ども 2	STOP CHILD LABOUR	ILO	ビデオ
615	11-0 地図 1	くらべてわかる世界地図① 暴力の世界地図	大月書店	書籍
616	11-0 地図 2	くらべてわかる世界地図② 学校の世界地図	大月書店	書籍
617	11-0 地図 3	くらべてわかる世界地図③ ジェンダーの世界地図	大月書店	書籍
618	11-0 地図 4	くらべてわかる世界地図④ 福祉の世界地図	大月書店	書籍
619	11-0 地図 5	くらべてわかる世界地図⑤ 文化の世界地図	大月書店	書籍
620	11-0 地図 6	ワールドバンクミニアトラス	シュプリンガー・フェアラーク東京	書籍
621	11-0 地図 7	食料の世界地図	丸善	書籍
622	11-0 地図 8	NHKスペシャル データマップ 63億人の地図 いのちの地図帳	アスコム	書籍
623	11-0 地図 9①②	No Longer Down Under	Hallifax	地図
624	11-0 地図 10	世界がみえる 地図の絵本	あすなる書房	絵本

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
625	11-0 地図 11①②	Mapping our World	Oxfam	ブックレット
626	11-0 地図 12	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2003 年版	成美堂出版	書籍
627	11-0 地図 13	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2005 年版	成美堂出版	書籍
628	11-0 地図 14	今がわかる 時代がわかる 日本地図 2005 年版	成美堂出版	書籍
629	11-0 地図 15	Hunger Map もう一枚の世界地図	国際連合世界食糧計画	ブックレット
630	11-0 地図 16	Hunger Map ハンガーマップ	国際連合世界食糧計画	ワークキット
631	11-0 地図 17	イエティを探せ	ゆまに書房	絵本
632	11-0 地図 18	ピーター図マップ	Oxfam	地図
633	11-0 地図 19	世界地図 (アフリカ中心)		地図
634	11-0 地図 20	<文化の世界地図> 大型地図	グローバルみらい塾	地図
635	11-0 地図 21	<文化の世界地図> 解説冊子	グローバルみらい塾	冊子
636	11-0 地図 22	EARTH at NIGHT 宇宙から見た夜の地球 授業指導例 (ポスター) 指導書付き	エネルギー教育全国協議会事務局	地図
637	11-0 地図 23	MAPS 新・世界地図	徳間書店	地図
638	11-0 地図 24	地図でみる日本の外国人 改訂版	ナカニシヤ出版	書籍
639	12-0 国際協力1①②③	JICA フォトランゲージキット	国際協力事業団	ワークキット
640	12-0 国際協力2	いま私たちにできること	国際協力事業団	ブックレット
641	12-0 国際協力3①②	ミレニアム開発目標 とともに生きる地球市民	外務省	ブックレット
642	12-0 国際協力4	人口問題 ブリーフィング・キット2001	アジア人口・開発協会	ブックレット
643	12-0 国際協力5	世界人口白書2002 人々・貧困・ひろがる可能性	アジア人口・開発協会	ブックレット
644	12-0 国際協力6	世界子供白書2003	ユニセフ	ブックレット
645	12-0 国際協力7	世界子供白書2004	ユニセフ	ブックレット
646	12-0 国際協力8	世界子供白書2005 危機に晒される子どもたち	ユニセフ	ブックレット
647	12-0 国際協力9	世界子供白書2006 存在しない子どもたち	ユニセフ	ブックレット
648	12-0 国際協力10①②	開発のための教育	ユニセフ	ブックレット
649	12-0 国際協力11①②	地球のともだち ユニセフワークブック	ユニセフ	ブックレット
650	12-0 国際協力12①②	「総合的な学習の時間」とユニセフ	ユニセフ	ブックレット
651	12-0 国際協力13	わたしの権利 みんなの権利	ユニセフ	ブックレット
652	12-0 国際協力14①②	子どもの権利条約 カードブック	ユニセフ	ブックレット
653	12-0 国際協力15①②	ユニセフと世界のともだち	ユニセフ	ブックレット
654	12-0 国際協力16①②	国際理解カード	国際協力推進協会	ワークキット
655	12-0 国際協力17	学校と地域がつくる国際理解教育	武蔵野市国際交流協会	ブックレット
656	12-0 国際協力18	学校と地域がつくる国際理解教育 NGO 編	武蔵野市国際交流協会	ブックレット
657	12-0 国際協力19	授業に役立つ総合学習の手引き 平成11年度高校教師海外研修に参加して	国際協力事業団	ブックレット
658	12-0 国際協力20	国際理解教育の手引き 先生が見てきた国際協力の舞台 H12 中学校	国際協力事業団	ブックレット
659	12-0 国際協力21	国際理解教育の手引き 地球を枕に夢を見よう H12 高校	国際協力事業団	ブックレット
660	12-0 国際協力22	国際理解教育の手引き H13 高校	国際協力事業団	ブックレット
661	12-0 国際協力23	国際理解教育の手引き H13 中学校	国際協力事業団	ブックレット
662	12-0 国際協力24	国際理解教育の手引き H14 高校	国際協力事業団	ブックレット
663	12-0 国際協力25	国際理解教育の手引き H15 小学校	国際協力事業団	ブックレット
664	12-0 国際協力26	協力隊体験を伝えよう2 生きる力を育てるワークショップ集	青年海外協力協会	ブックレット
665	12-0 国際協力27	国連ってなあに?	国連広報センター	ブックレット
666	12-0 国際協力28	みんなの国連	国連広報センター	ブックレット
667	12-0 国際協力29	いっしょにやろうよ 国際ボランティア NGO ガイドブック	三省堂	書籍
668	12-0 国際協力30	市民参加で世界を変える	朝日新聞社	書籍
669	12-0 国際協力31	せかいじゅうにおともだちをつくろう	国際協力推進協会	紙芝居
670	12-0 国際協力32	食べものから世界が見える、どこからきたの?	国際協力推進協会	紙芝居
671	12-0 国際協力33	ごはんのこしていいの?	国際協力推進協会	紙芝居
672	12-0 国際協力34	「援助」する前に考えよう 参加型開発と PLA がわかる本	開発教育協会	書籍
673	12-0 国際協力35	国際協力と開発教育-「援助」の近未来を探る	明石書店	書籍
674	12-0 国際協力36	「国際協力」をやってみませんか? 仕事として、ボランティアで、普段の生活でも	小学館	書籍
675	12-0 国際協力37	貧しい人を助ける理由 遠くの子とあなたのつながり	日本評論社	書籍
676	13-0 韓国文化1	一目で見る韓国	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
677	13-0 韓国文化2	壇君神話	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
678	13-0 韓国文化3	一目で見る韓国の歴史	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
679	13-0 韓国文化4	高句麗への旅	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
680	13-0 韓国文化5	韓国の伝統 (的生活)	太郎次郎社	絵本 (韓英)
681	13-0 韓国文化6	韓国の遊び	太郎次郎社	絵本 (韓英)
682	13-0 韓国文化7	韓国のシンボル	太郎次郎社	絵本 (韓英)
683	13-0 韓国文化8	韓国の礼儀と風習	太郎次郎社	絵本 (韓英)
684	13-0 韓国文化9	韓国へ行こう!	太郎次郎社	絵本 (韓英)
685	13-0 韓国文化10	ソウルへ行こう!	太郎次郎社	絵本 (韓英)
686	13-0 韓国文化11	栗谷李珥	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
687	13-0 韓国文化12	世宗大王	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
688	13-0 韓国文化13	李舜臣	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
689	13-0 韓国文化14	安重根	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
690	13-0 韓国文化15	柳順寛	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
691	13-0 韓国文化16	金九	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
692	13-0 韓国文化17	興夫と懶夫	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
693	13-0 韓国文化18	お日さまとお月さま	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
694	13-0 韓国文化19	青大将ソンビ	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
695	13-0 韓国文化20	孝行娘沈清	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
696	13-0 韓国文化21	あずき粥婆さんと虎	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
697	13-0 韓国文化22	一粒の粟で結婚した男	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
698	13-0 韓国文化23	五人の力士 (力持ち)	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
699	13-0 韓国文化24	新聞記者が高校生に語る 日本と朝鮮半島 100 年の明日	彩流社	書籍
700	13-0 韓国文化25	ユンノリ物語	太郎次郎社	絵本 (ハングル)
701	13-1 韓国文化1	韓国朝鮮のあいさつの言葉	太郎次郎社	パネル*

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発行・出版社	種 類
702	13-1 韓国文化 2	韓国朝鮮の親族呼称	太郎次郎社	パネル*
703	13-1 韓国文化 3	韓国朝鮮料理	太郎次郎社	パネル*
704	13-1 韓国文化 4	民族衣装と紐の結び方	太郎次郎社	パネル
705	13-1 韓国文化 5	初誕生日の服と婚礼服	太郎次郎社	パネル
706	13-1 韓国文化 6	千字文	太郎次郎社	パネル*
707	13-1 韓国文化 7	ハングル	太郎次郎社	パネル*
708	13-1 韓国文化 8	ウリナラ旅行図と半島図	太郎次郎社	パネル*
709	13-1 韓国文化 9	生活案内標示・交通安全標識	太郎次郎社	パネル*
710	13-1 韓国文化 10	不思議な体	太郎次郎社	パネル*
711	13-1 韓国文化 11	図形	太郎次郎社	パネル
712	13-1 韓国文化 12	色	太郎次郎社	パネル
713	13-1 韓国文化 13	数字	太郎次郎社	パネル*
714	13-1 韓国文化 14	動物	太郎次郎社	パネル*
715	13-1 韓国文化 15	果物・野菜	太郎次郎社	パネル*
716	14-0 移民 1	カリナのブラジルとニッポン	JICA 横浜海外移住資料館	紙芝居
717	14-0 移民 2	弁当からミックスプレートへ	JICA 横浜海外移住資料館	紙芝居
718	14-0 移民 3	ハワイにわたった日系移民	JICA 横浜海外移住資料館	紙芝居
719	14-0 移民 4	海を渡った日本人	JICA 横浜海外移住資料館	紙芝居
720	14-0 移民 5	移民カルタ	JICA 横浜海外移住資料館	カルタ
721	14-0 移民 6	目で見るブラジル日本移民の百年	風響社	写真集
722	14-0 移民 7	日本・ブラジル 移民カルタ	JICA 横浜海外移住資料館	カルタ

国際教育 地球市民を地域とともに育てよう Part 23 報告書

発行日 令和7年(2025年)3月
 発 行 公益財団法人滋賀県国際協会
 〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20
 ピアザ淡海2階
 電話 077-526-0931
 FAX 077-510-0601
 E-mail info@s-i-a.or.jp
 URL https://www.s-i-a.or.jp
 印 刷 佐々木印刷有限会社



分科会
1

「子ども兵士の現在^{いま}
～わたしたちにできること～」



分科会
2

「“情報弱者”とは何かを考える
～ごみの分別ワークを通して～」



分科会
3

「世界に目を向けよう
～地球市民の一員として～」



分科会
4

「多文化保育～外国にルーツのある
子どもとその親の困りごとを
考える『読めないお知らせ』～」